NUEVA

ヌエバでチャンピオンを目指せ!!


国際ハンドボール連盟公認球

日本リーグ唯一の公式試合球

全日本大学選手権（インカレ）
唯一の公式試合球



日本ハンドボール協会検定球



「スポーツ振興基本計画」をうけて

(財)日本ハンドボール協会常務理事(日本ハンドボールリーグ機構会長)　市原則之

平成10年4月より日本協会の専務理事を仰せつかり、あっという間に3年間が過ぎました。この間、文部科学省からの補助金やスポーツ振興基金からの助成金の不適切な運用により、ハンドボール界の信用を著しく失墜させ、任期途中で専務理事職の交代を余儀なくし、日本協会執行部や事務局内に多くの混乱を招いた責任は重く、心からお詫び申し上げるところです。そうした中、日本協会執行部が将来のハンドボール界の発展を見据えて策定した、①がんばれ10万人会②ナショナルトレーニングシステム（NTS）③普及特別対策④アテネオリンピック特別強化。以上の4項目にわたる短中長期施策に、ご理解と多大なるご支援を頂いておりますことは、大変有難く心から感謝いたしております。同時に、この施策を引き継ぐ大西専務理事をヘッドにする新体制執行部にも、旧来に増してのご支援とご指導を賜りますよう、お願い申し上げる次第であります。

さて、我が国の長引く経済不況は社会の大きな変革を求めております。今までの培われた規範は、時代の要請に応えられなくなってまいりました。我々のスポーツ界においても例外でなく、従来までの学校スポーツや企業スポーツ主導の考え方は最早社会ニーズにあわず、様々な改革を必要とされております。

こうしたスポーツ環境の変化する中、旧文部省は昨年9月13日に「スポーツ振興基本計画」を告示しました。この「スポーツ振興基本計画」は、国が今後目指すスポーツ振興の基本的方向を示し、各地方や団体がそれぞれの実情に即した形のスポーツ振興計画を策定して推進するように指導しています。その主要な政策課題は大きく3つの柱に分けられ、第1番目に「生涯スポーツ社会に向けた、地域におけるスポーツ環境の整備充実方策」、第2番目が「我が国の国際競技力の綜合的な向上方策」、そして第3番目に「生涯スポーツ及び競技スポーツと学校体育・スポーツとの連携を推進するための方策」を掲げています。



以上の3つの重要方策にはそれぞれに幾多の政策目標が設定され、しかも目標達成を10年間と定めて具体的施策まで盛り込まれております。

この方策を推進・達成させるには莫大な財源が必要となりますが、この背景には「スポーツ振興投票くじ」（toto）制度の制定があり、いよいよ本年度より実施に移され来年度からその収益金が地方自治体や各スポーツ団体に配分されます。しかし、各競技団体はこの配分金だけでは全ての事業を達成させることはおそらく不可能で、今まで以上に組織が一丸となって自主財源の確保に奔走しなければならないと思います。

これからは、従来見受けられた「学校閥や組織論理」或いは「企業のエゴ」などは最早通用せず、逆に早く脱却しないと社会から受け入れられなくなるでしょう。

今般の「スポーツ振興基本計画」の告示を真摯に受け止めて、ハンドボール界全体が意識を変え「自助・自在」の精神によってハンドボール競技の振興を図って参らなければなりません。不肖私も、多くの子供達に夢と希望を与え、同時に、ひたむきに生きる国民にも活力が与えられる「スポーツ文化の構築」に向かって微力ながらも努力して参ります。

第3回東アジア競技大会

男女各6チームが参加して開催
男女とも韓国が優勝を飾る

第3回東アジア競技大会大阪大会は、東アジア競技大会連合（ＥＡＧＡ）に加盟する10の国と地域に加え、オープン参加のオーストラリアによって、9日間の熱い戦いが繰り広げられた。

ハンドボール競技は、男女が開催され、男子は中華人民共和国、大韓民国、中国香港、チャイニーズタイペイ、日本、オーストラリアの6チーム、女子は中華人民共和国、大韓民国、チャイニーズタイペイ、カザフスタン、日本、オーストラリアの6チームが参加した。

会場は大阪市住吉区にある住吉スポーツセンターが使われた。

●大会の展開●

【男子】



男子の部は、21日韓国対チャイニーズタイペイの一戦で火ぶたを切った。日本は初戦が対香港であり、体格とスピード、パワーで難なく大勝した。

しかし翌日、対中国戦では、アジアサーキットでの大勝で油断したか2点差で敗れるという窮地に立った。

さらに、チャイニーズタイペイ戦でも接戦を演じ、何とか勝利を物にした。今後のチャイニーズタイペイの躍進に驚異を感じさせるに十分であった。

最終日、中国とチャイニーズタイペイの結果如何では、順位に変動が生じるという展開であったが、中国がチャイニーズタイペイを振り切り、銀メダルを確保した。

優勝は、ドイツから帰国したユーン・キョーシンを加えた韓国が圧倒的な強さを見せ、勝ち取った。日本は辛くも銅メダルとなった。

［試合結果］

■5月21日(月)

韓国	34	12—13	22—10	23	チャイニーズタイペイ
中国	28	13—2	15—14	16	オーストラリア
日本	41	19—1	22—7	8	中国香港

■5月22日(火)

チャイニーズタイペイ	29	12—13	17—5	18	オーストラリア
韓国	50	23—6	27—5	11	中国香港
中国	23	12—9	11—12	21	日本

■5月23日(水)

中国	44	23—7	21—6	13	中国香港
韓国	36	20—6	16—10	16	オーストラリア
日本	25	15—12	10—11	23	チャイニーズタイペイ

■5月25日(金)

チャイニーズタイペイ	55	23—8	32—10	18	中国香港
韓国	34	12—9	22—8	17	中国
日本	26	12—5	14—5	10	オーストラリア

■5月26日(土)

オーストラリア	40	17—10	23—7	17	中国香港
中国	29	14—14	15—14	28	チャイニーズタイペイ
韓国	24	13—7	11—7	14	日本

★男子最終結果は表1参照

【女子】



女子は、日本対チャイニーズタイペイの一戦で戦いの火ぶたを切った。日本は初戦を難なく乗り切り、続く中国戦も好ゲームを展開し、勝利を物にした。

4日目、カザフスタン戦では、体格的に勝るカザフスタンを相手に好ゲームを展開した。終盤同点となり、残り25秒で日本ボールとなって勝利を期待させたが、ミスでチャンスをつぶした。惜しい一戦であった。

最終戦は、韓国と金メダルをかけた一戦となった。日本は、攻撃が当たり次々と加点し、前半を2点リードで終了した。しかし、世界の強豪韓国は後半その実力を発揮し、逆転し優勝を飾った。日本は次を期待させる好ゲームであった。

［試合結果］

■5月20日(日)

日本	24	14—8	10—10	18	チャイニーズタイペイ
カザフスタン	21	12—11	9—9	20	中国
韓国	43	19—9	24—3	12	オーストラリア

■5月21日(月)

日本	21	12—9	9—8	17	中国
韓国	36	18—6	18—12	18	チャイニーズタイペイ
カザフスタン	28	14—5	14—9	14	オーストラリア

■5月22日(火)

チャイニーズ・タイペイ 16（10— 9 / 6— 7）16 中国

日本 33（15— 6 / 18— 6）12 オーストラリア

韓国 24（13— 8 / 11—11）19 カザフスタン

■5月24日(木)

日本 25（9—11 / 16—14）25 カザフスタン

韓国 31（17— 9 / 14—11）20 中国

チャイニーズ・タイペイ 27（12— 9 / 15— 6）15 オーストラリア

■5月25日(金)

カザフスタン 22（11— 9 / 11— 4）13 チャイニーズ・タイペイ

中国 26（14— 4 / 12— 3）7 オーストラリア

韓国 28（14—16 / 14— 8）24 日本

★女子最終結果は表2参照

表1　男子最終結果

順位		韓国	中国	日本	タイペイ	オースト	中国香港	勝	分	負	勝点
1	大韓民国		34○17	24○14	34○23	36○16	50○11	5	0	0	10
2	中華人民共和国	17●34		23○21	29○28	28○16	44○13	4	0	1	8
3	日本	14●24	21●23		25○23	26○10	41○8	3	0	2	6
4	チャイニーズ・タイペイ	23●34	28●29	23●25		29○18	55○18	2	0	3	4
5	オーストラリア	16●36	16●28	10●26	18●29		40○17	1	0	4	2
6	中国香港	11●50	13●44	8●41	18●55	17●40		0	0	5	0

表2　女子最終結果

順位		韓国	日本	カザフ	中国	タイペイ	オースト	勝	分	負	勝点
1	大韓民国		28○24	24○19	31○20	36○18	43○12	5	0	0	10
2	日本	24●28		25△25	21○17	24○18	33○12	3	1	1	7
3	カザフスタン	19●24	25△25		21○20	22○13	28○14	3	1	4	7
4	中華人民共和国	20●31	17●21	20●21		16△16	26○7	1	1	3	3
5	チャイニーズ・タイペイ	18●36	18●24	13●22	16△16		27○15	1	1	3	3
6	オーストラリア	12●43	12●33	14●28	7●26	15●27		0	0	5	0

●選手団名簿●

第3回東アジア競技大会・参加者名簿（男子）

		氏名	ふりがな	所属先名	生年月日	身長	体重
男子監督		田口　隆	たぐち　たかし	日本協会　強化委員			
コーチ		S. コワルスキー	スタニスラフ コワルスキー	日本協会			
ドクター		加藤　公	かとう　こう	三重大学			
トレーナー		赤尾和彦	あかお　かずひこ	トレーナーズ・フォー・アスリート・カンパニー			
GK	1	荻田　圭	おぎた　けい	大同特殊鋼	1975.9.4	190	86
〃	12	四方　篤	しかた　あつし	本田技研	1972.5.12	190	95
〃	16	坪根敏宏	つぼね　としひろ	湧永製薬	1973.6.4	187	92
CP	2	野村広明	のむら　ひろあき	トヨタ車体	1975.2.13	177	80
〃	3	田場裕也	たば　ゆうや	湧永製薬	1975.9.12	183	86
〃	4	佐々木教裕	ささき　のりひろ	本田技研	1974.4.8	192	99
〃	5	冨本栄次	とみもと　えいじ	大同特殊鋼	1971.10.18	182	88
〃	6	池辺健二	いけべ　けんじ	本田技研	1974.9.19	192	97
〃	7	中山　剛	なかやま　つよし	湧永製薬	1969.7.4	191	93
〃	8	角谷裕司	かくたに　ゆうじ	トヨタ車体	1973.11.5	175	73
〃	10	斉藤泰貴	さいとう　やすたか	本田技研	1974.12.11	186	84
〃	11	中川善雄	なかがわ　よしお	OSAKI　OSOL	1974.8.9	180	83
〃	14	田中　将	たなか　まさし	日本協会	1976.1.17	172	73
〃	15	宮崎大輔	みやざき　だいすけ	日本体育大学	1981.6.6	174	70
〃	18	山口　修	やまぐち　おさむ	湧永製薬	1972.2.28	191	98
〃	20	辻　昇一	つじ　しょういち	OSAKI　OSOL	1973.5.10	183	75

第3回東アジア競技大会・参加者名簿（女子）

		氏名	ふりがな	所属先名	生年月日	身長	体重
女子監督		伊藤宏幸	いとう　ひろゆき	日本協会　強化委員			
コーチ		黄　慶泳	ふあん　きょんよん	日本協会			
ドクター		坂口　満	さかぐち　みつる	熊本整形外科病院			
トレーナー		皆川直哉	みながわ　なおや	オレンジカウンティー			
GK	1	飛田季実子	ひだ　きみこ	日立栃木	1977.9.26	168	64
〃	12	浅井友可里	あさい　ゆかり	立山アルミ	1979.10.4	177	68
CP	2	青戸あかね	あおと　あかね	イズミ	1974.7.11	164	62
〃	3	田中美音子	たなか　みねこ	Skovbakken	1975.1.14	160	55
〃	4	倉知光子	くらち　みつこ	日立栃木	1975.11.12	167	58
〃	5	大石真代	おおいし　まさよ	オムロン	1976.12.7	170	67
〃	6	隅　幸恵	すみ　さちえ	オムロン	1977.3.21	166	62
〃	7	佐久川ひとみ	さくがわ　ひとみ	オムロン	1977.7.21	170	61
〃	8	稲吉希穂	いなよし　きほ	シャトレーゼ	1977.9.28	160	60
〃	9	山下麗子	やました　れいこ	オムロン	1977.10.5	170	67
〃	10	坂元智子	さかもと　ともこ	オムロン	1978.9.12	171	65
〃	11	山田永子	やまだ　えいこ	オムロン	1979.1.3	160	59
〃	14	菅谷美奈	すがや　みな	ブラザー工業	1979.4.22	175	70
〃	15	早船愛子	はやふね　あいこ	筑波大学	1980.1.23	165	60
〃	16	谷口尚代	たにぐち　ひさよ	筑波大学	1982.5.9	183	84
〃	21	村上麻美	むらかみ　あさみ	北国銀行	1977.7.31	168	65

エキストラオフィシャル

緒方嗣雄	選手団団長・男子責任者兼務
西窪勝広	女子責任者
水上　一	統括コーチ
玉村健次	統括コーチ
平岡秀雄	分析活動
田村修治	分析活動
田中　茂	総務

既報（前号）より変更がありましたので、改めて掲載致します。

第3回東アジア競技大会を戦い終えて 男女ハンドボールの総括

(財) 日本ハンドボール協会強化委員長　**緒方　嗣雄**

男子日本代表チームについて

アテネプランの一環としてナショナルマッチの増加を目的として、この東アジア大会の直前に行われた、アジアナショナルサーキットを含め2週間で10試合を行うハードスケジュールを消化した。アジアナショナルサーキットは、日本代表チームを二分して戦い、より多くの選手に国際試合の経験をさせることが出来た。また、アジア各国の戦略・戦術の情報収集・個人技術の分析情報収集を予定通り行うことができた。日本代表チーム力の把握・個人技術の通用性、個人モチベーションの把握等が試合を通じて確認できた。なかでも、中川・野村・斎藤選手は試合の活躍が認められ急遽、東アジア大会に出場することとなったが、その好調を引き継ぎ東アジア大会でも活躍した。



東アジア大会目標は、まず大型選手を多用しDFを固めて如何に攻撃に繋げる事。DFについては、60%達成できたが、OFには結び付かなかった。OFは、小柄な選手の動き・活躍が目立った。DF・OFの選手交代のため、速攻に結び付かなかった。また、サイドの選手のスペースを早く取れなかった為速攻がなかった。この傾向は、国内大会でも多く見られる。選手の足が動かないため勝負どころで勝負を掛けられないケースもあった。

今後の課題として、走り負けないタフネスなゲームスタミナ、勝負どころのベンチワーク、戦うモチベーションを向上する必要がある。分析・情報収集の充実、スタッフのパワーアップを図る。

女子日本代表チームについて

日本代表選手が全員揃っての合宿日数が少なかった(学生リーグ、デンマーク組は入替戦のため合宿入りが遅れた)。

日本代表経験の浅い選手もチーム戦術を理解して全員で戦うチームとなった。ジュニア主体のチャイニーズタイペイには後半同点となるも前半で試合を決めた。大幅にメンバー変更した中国は終始リードをして問題はなく勝利、第3戦オーストラリアは寄せつけず、メンバーがあまり変わっていないカザフスタンは、個人力パワーにものを言わせ前半は2点のビハインドを背負う。後半に入り粘りを見せて引き分けた。ヨーロッパ並のパワーは今後要注意である。韓国戦は、勝ちたい気持ちで試合に臨み、前半思い通りのリードをするが、後半は一進一退のゲームをしたが退場者が出た時にリードを奪われ敗れる。スピーディーなプレーを心掛け良く走りはしたものの最後の勝負のスタミナ切れが惜しまれる。女子チームの課題は、体力UPとコンビネーションプレーを向上する必要がある。分析・情報収集、スカウティングは各所属のスタッフ全員の協力を得る。



THE 1st MEN'S HANDBALL GAME ASIA NATIONAL CIRCUIT 2001 in JAPAN

アジアナショナルサーキット2001

韓国が圧倒的強さを見せ優勝

アテネオリンピック出場を目指す強化の一貫として企画された、アジアナショナルサーキット2001は、5月12日から17日までの6日間、近畿地区の兵庫、京都、奈良、滋賀を転戦しながら、熱戦が展開された。

参加チームは、オーストラリア、中国、韓国、サウジアラビア、日本代表αチームとβチームの6チームであった。サウジアラビア以外は、直後に東アジア大会を控え、重要な意味を持つ大会となった。また、サウジアラビアは熊本での全日本を率いたオレ・オルソン監督が指揮を取り、前回の世界選手権予選では日本を破った国でもあり、その戦いぶりが注目された。

韓国は、エース、ユン・キョーシンを欠きながら、ペク・ウォンチョル、ファンボ・ソンイルの活躍で圧倒的な強さを見せ優勝を飾った。2位には、日本αがそつのない戦いで入った。3位には中国と引き分けた日本βが得失点差で入った。中国はディフェンスの弱さが裏目に出て4位となった。

オルソン監督率いるサウジアラビアは、若手主体のメンバー構成のため、攻撃に精彩を欠き、5位に甘んじた。オーストラリアは6位であった。

■5月12日(土)

［神戸中央体育館］

韓国 37（16—10 / 21—8）18 オーストラリア

韓国は早いボール回しからサイドシュートで得点を重ね、7分で5対1となるが、オーストラリアもポストシュートで対抗、韓国の白選手の退場もあり、13分に6対6の同点まで盛り返す。その後、オーストラリアは4人が退場になり、前半を16対10で終える。後半も堅い守りから多彩な攻撃で加点し、韓国が勝利した。

全日本α 18（11—9 / 7—7）16 全日本β

スピーディーなゲーム展開で一進一退の攻防。20分過ぎまで、βは野村のミドル等で優位な展開で試合をすすめる。26分からαはβに退場者が連続した間に、小沢の7mスローで確実に攻め、逆転に成功。前半を2点リードで終了する。後半15分過ぎまでαは再三のチャンスを得るが、βのGK吉田の好セーブに阻まれ、2点差まで詰め寄られる。αは23分、山口が退場、さらに24分、加藤が不正入場。この間にβは野村、古家で1点差に詰め寄るものの、最後はαが2点差で逃げ切った。

全日本α

番号	氏名	得点
1	萩田	0
2	加藤	1
3	田場	3
4	佐々木	1
5	冨本	2
6	池辺	0
7	中山	1
9	小沢	4
10	斉藤	2
11	前田	1
12	四方	0
14	田中	1
15	窪小谷	0
16	坪根	0
18	山口	2
19	宮崎	0
20	辻	0
	合計	18

全日本β

番号	氏名	得点
1	日原	0
2	杉山	2
3	中川	2
4	松林	0
5	永島	0
6	古家	2
7	倉	1
8	角谷	0
9	野村	5
10	柳本	0
11	阿部	0
12	松村	0
13	市原	0
14	内田	1
16	吉田	0
21	下川	3
	合計	16

中国 26（15—11 / 11—13）24 サウジアラビア

立ちあがりより中国が3点先取し、サウジアラビアに堅さが見られたが、サイドシュートの得点により一進一退のゲームになり、15対11で前半終了。中国のロングシュート、サウジアラビアのポストシュートなどでゲームは進行し、残り3分、3点差からサウジアラビア、サイドシュートするがGKにセーブされ逆速攻で中国に得点され逆転ならず中国が勝った。

■ 5月13日(日)

［神戸中央体育館］

全日本α 13（8— 5／5— 5）10 サウジアラビア

前半10分過ぎまで日本は田中の速攻、サイドなど3点を含め6点、サウジアラビアもトゥルキのステップなどで3点と日本優位に進めるが、7mスロー2本を含めノーマークシュートをサウジアラビアGKにキープされ、8対5で折り返す。後半になっても日本は7m4本をキープされ、28分に山口のポストシュートで13対10として勝利した。

全日本α

番号	氏名	得点	番号	氏名	得点
2	加藤	0	10	斉藤	0
3	田場	3	12	四方	0
4	佐々木	1	14	田中	3
5	冨本	0	16	坪根	0
6	池辺	0	18	山口	3
7	中山	0	19	宮崎	0
9	小沢	1	20	辻	2
				合計	13

韓国 39（19— 9／20—11）20 中国

立ちあがりより5点連取した韓国は、中盤こそ2点差まで詰め寄られたが、足を使った守りから中国のミスを誘い、カット・速攻で加点し19対9で前半を折り返す。後半に入っても韓国のスピードある攻守で着実に加点し勝利を収める。

全日本β 28（14— 9／14— 9）18 オーストラリア

立ちあがり双方ともサイドシュートでの得点が続く。日本は速攻からのポストシュート、下川の再三のサイドシュート、そして吉田のナイスキープで着実に加点。一方、オーストラリアは徹底してポストにボールを集めて追いすがる。厳しい接触プレーの連続で負傷退場者も出て、双方イエロー3枚で前半を終了。角谷から中川へのあざやかなスカイプレーで後半は始まる。オーストラリアは速いボール回しによって中央からのロングシュートを再三放つ。しかし6～7点の差は縮まらず、次第にボールキープ力が低下。カットされたボールを日本に得点され、10点差で終了。

全日本β

番号	氏名	得点	番号	氏名	得点
1	日原	0	10	柳本	3
2	杉山	1	11	阿部	2
3	中川	4	12	松村	0
4	松林	1	13	市原	1
5	永島	1	14	内田	2
6	古家	0	16	吉田	0
7	小倉	3	21	下川	5
8	角谷	2			
9	野村	3		合計	28

★アジアサーキット2001でファン交流会開催

アジアサーキット2001で、5月12日、神戸中央体育館での試合終了後、体育館ロビーでファン交流会が開催されました。地元兵庫県ハンドボール協会の皆さんが、ポラロイドカメラを用意し、ナショナル選手との記念撮影した写真をその場でプレゼントしました。集まったファンは、若い女性や、子どもばかりではなく、付き添いの方々も多く集まり、ロビー一杯になりました。



最初は恥ずかしいのか動きもそぞろでしたが、兵庫県協会の方々の誘導もあり、それぞれお気に入りのナショナル選手との記念撮影や、サインをもらったりと集まったファンの方々も大喜びでした。

今後もこのような企画が行われると思いますが、ぜひ多くの方々に参加してもらいたいものです。

■ 5月14日(月)

［田辺中央体育館］

全日本β 25（11—11／14—14）25 中国

前半、日本は中国の高いディフェンスに対し、巧みなボールまわしと素早いステップからのミドルシュートが決まり、常にリードして試合を進める。一方中国は日本のGK吉田を中心とした固い守りを攻めあぐねたが、15分過ぎより、ロングシュートが決まり出し、25分過ぎついに逆転に成功する。このまま中国リードで前半を終了するかに見えたが、終了間際、相手のミスから速攻を決め、日本は同点に追いつく。同点で迎えた後半、日本はミドルシュートが冴え、10分間で4点をリードする。しかし日本は不正交替の退場から攻撃のリズムを崩し、中国の速攻が連続し、20分、ついに逆転を許す。その後、終始中国がリードするが、日本も残り5分、驚異的な粘りを見せ終了2秒前に日本が追いつき、同点で終了した。

全日本β

番号	氏名	得点	番号	氏名	得点
1	日原	0	10	柳本	0
2	杉山	3	11	阿部	1
3	中川	6	12	松村	0
4	松林	1	13	市原	1
5	永島	1	14	内田	1
6	古家	0	16	吉田	0
7	小倉	0	21	下川	0
8	角谷	3			
9	野村	8		合計	25

韓国 30（13—10／17— 5）15 サウジアラビア

前半立ちあがり、サウジアラビアのサイドシュートで先取点を許すも、韓国は早い当たりでサウジアラビアの攻撃を止め、10分で8対2とリードする。試合はこのまま一方的なペースで進むかと見られたが、サウジアラビアも粘りを見せ、GKの好キープもあり3点差までつめより、13対10の韓国リードで折り返す。後半に入っても一進一退の攻防を繰り返すが、個人技にまさる韓国が多彩なコンビプレーで徐々に得点差を広げ20分には10点差をつける。その後も韓国は足の止まったサウジアラビアに対し、速攻やコンビネーションプレーで攻撃の手を緩めず、30対15のダブルスコアで勝利を得た。

[生駒市民体育館]

全日本α 23 (13—7 / 10—13) 20 オーストラリア

前半互角の立ちあがりでゲームは進むが、日本はオーストラリアの激しいディフェンスに対して、田中のサイドシュートがよく決まり、確実に得点を重ねた。一方オーストラリアは大切なところでのキャッチミスやシュートミスで得点チャンスを逃し、ミランの活躍もあったが、7点をかえすにとどまった。後半は、オーストラリアのディフェンスが良くなり、速攻で反撃を始め、2点差まで詰め寄った。ここで日本は作戦タイムで温存していた田中を投入して辛くも3点差で逃げ切った。

全日本α

番号	氏名	得点	番号	氏名	得点
2	加藤	0	12	四方	0
3	田場	2	14	田中	7
4	佐々木	3	16	坪根	0
5	冨本	0	18	山口	3
6	池辺	1	19	宮崎	0
7	中山	3	20	辻	1
9	小沢	3			
10	斉藤	0		合計	23

5月16日(水)

[三田駒ケ谷体育館]

サウジアラビア 16 (8—6 / 8—8) 14 オーストラリア

前半17分過ぎより両GKの好セーブもあったが両チームで3得点と決め手を欠くプレーが続き、8対6とサウジアラビアのリードで折り返す。後半、オーストラリアの荒いディフェンスで3人の退場から3得点されサウジアラビアのペースかと思えたが、オーストラリアがじわじわと挽回し、21分には同点とした。しかしここから2人の退場を出し、好調7番のサイドシュートが決まりサウジアラビアが逃げ切った。



全日本α 25 (12—6 / 13—9) 15 中国

日本の足を使った積極的なディフェンスで中国の攻撃をかわし、GK坪根の7mスロー連続セーブや、田場、中山の活躍で前半を12対6とする。後半に入っても日本ペースでゲームは進行し、宮崎のシュート3連続もあり、日本が勝利を収めた。

全日本α

番号	氏名	得点	番号	氏名	得点
1	萩田	0	11	前田	0
2	加藤	1	12	四方	0
3	田場	7	14	田中	1
4	佐々木	1	15	窪小谷	0
5	冨本	0	16	坪根	0
6	池辺	0	18	山口	3
7	中山	3	19	宮崎	3
9	小沢	2	20	辻	4
10	斉藤	0		合計	25

[彦根市民体育センター]

韓国 26 (15—8 / 11—11) 19 全日本β

スピードに優る韓国が日本のミスに乗じて着実に加点。日本はGK吉田の再三のナイスセーブでピンチを防ぎ、前半20分までは角谷のミドル等で応戦し、イーブンの展開。しかし前半終了直前に韓国が連続得点し、15対8で折り返した。後半、韓国ディフェンスラインを引いたところを日本は野村らのミドルシュートで追い上げ、GK日原も好守で日本ペースとしたが、日本は退場者が相次ぎ、守勢まぬがれずジリジリと離されてしまった。日本の善戦及ばず、韓国が終始リードしゲームをものにした。

全日本β							
番号	氏　名	得点		番号	氏　名	得点	
1	日　原	0		10	柳　本	0	
2	杉　山	1		11	阿　部	2	
3	中　川	2		12	松　村	0	
4	松　林	4		13	市　原	0	
5	永　島	0		14	内　田	1	
6	古　家	0		16	吉　田	0	
7	小　倉	1		21	下　川	0	
8	角　谷	3					
9	野　村	5			合　計	19	

■ 5月17日(木)

[高砂総合体育館]

全　日　本　β　26 $\left(\begin{matrix}13-11\\13-\ 9\end{matrix}\right)$ 20　サウジアラビア

日本のディフェンスが光った。サウジアラビアは日本の動きの速いディフェンスに翻弄され、最後までリズムを作れなかった。

全日本β						
番号	氏　名	得点		番号	氏　名	得点
1	日　原	0		10	柳　本	3
2	杉　山	2		11	阿　部	1
3	中　川	3		12	松　村	0
4	松　林	0		13	市　原	1
5	永　島	0		14	内　田	0
6	古　家	0		16	吉　田	0
7	小　倉	3		21	下　川	2
8	角　谷	2				
9	野　村	9			合　計	26

[神戸中央体育館]

中　　　　国　32 $\left(\begin{matrix}16-12\\16-12\end{matrix}\right)$ 24　オーストラリア

オーストラリアが先制、リードから警告・退場が続き、中国はサイドシュートなどで逆転し、このままのムードで乗り切るかと思われたが、オーストラリアもじわじわ追い上げ再逆転。しかし残り4分で5連続得点を許し、4点差にされる。後半は一進一退の展開であったが、オーストラリアの雑なプレーにも助けられ、中国が徐々に加点しゲームセット。

韓　　　　国　30 $\left(\begin{matrix}13-\ 9\\17-10\end{matrix}\right)$ 19　全　日　本　α

立ちあがり双方セットプレーから互いに得点。韓国は白、日本は田場が着実に加点。韓国は速いボール回しと高い打点からのシュートが冴える。対する日本は相手のボール回しをカットした速攻やポストシュートなどで13分までは一進一退。しかし20分過ぎから動きに勝る韓国がじわじわ引き離し、4点差で前半終了。後半も韓国の勢いは止まらず、白を中心に7mスロー、キーパーの好守からの速攻等、多彩な攻めで日本を引き離す。一時は10点差となるも、日本は速いボール回しからほんの少しの守備の乱れをつき反撃する。しかし取れば取り返され、韓国優勢のまま終了。なお、白は9得点、皇甫は8得点と大活躍であった。

全日本α						
番号	氏　名	得点		番号	氏　名	得点
1	萩　田	0		11	前　田	0
2	加　藤	0		12	四　方	0
3	田　場	3		14	田　中	3
4	佐々木	2		15	窪小谷	0
5	冨　本	2		16	坪　根	0
6	池　辺	1		18	山　口	3
7	中　山	2		19	宮　崎	1
9	小　沢	0		20	辻	0
10	斉　藤	2			合　計	19

★アジアナショナルサーキットと東アジア両大会に実況アナウンス



アジアナショナルサーキットと東アジア大会に実況アナウンサーが登場しました。

アナウンスを担当したのは、松原英司さんと河合龍二さんのお二人。このお二人、現職はハンドボールの盛んな愛知県の高校教員で、チーム指導も熱心に行われています。教え子の中には、大学で活躍中の選手も数多くいるとか。

また、お二人でペアーを組むれっきとした公認審判員でもあります。アナウンスのほうは、チーム指導をなさっていることや、審判としてのキャリアを活かして、専門的な内容が豊富で評判も上々でした。語り口調も軽快でゲームの盛り上げに一役買っていました。

東アジア大会では、AHFのテクニカルデレゲートより注文が付き、本領を発揮できなかったことが残念でした。

最終成績

順位		韓　国	日本α	日本β	中　国	サウジアラビア	オーストラリア	勝分負	得点	失点	差	勝点
1	韓　国		30☆19	26☆19	39☆20	30☆15	37☆18	5-0-0	162	91	71	10
2	日本α	19★30		18☆16	25☆15	13☆10	23☆20	4-0-1	98	91	7	8
3	日本β	19★26	16★18		25△25	26☆20	28☆18	2-1-2	114	107	7	5
4	中　国	20★39	15★25	25△25		26☆24	26☆24	2-1-2	118	137	−19	5
5	サウジアラビア	15★30	10★13	20★26	24★26		16☆14	1-0-4	85	109	−24	2
6	オーストラリア	18★37	20★23	18★28	24★26	14★16		0-0-5	94	136	−42	0

「アジアナショナルサーキット2001」フェアウェルパーティー大きな盛り上がりで大成功を収める

【日　時】平成13年5月17日(木)　午後8時30分～
【場　所】西神オリエンタルホテル4階宴会場
【出席者】各国選手・役員、日本協会・大会開催地役員、一般ファン、その他約500名

パーティーは大会関係者、一般ファンが各国選手団を拍手、手拍子で迎え午後8時30分過ぎから始まりました。簡単な関係者の挨拶等セレモニーがあり、乾杯・会食となりました。

最初は選手もファンも初めての雰囲気に戸惑っているようで少しぎこちなく、選手もそれぞれ固まっており、それをファンが遠巻きにお目当ての選手を探し求めているようでした。途中、賞金授与や返礼のスピーチ等があり、徐々に緊張もほぐれたのか、ファンもお目当ての選手にサインや記念写真を頼みに行くなど和やかなパーティーとなっていきました。あちこちで選手を囲んだグループが出来上がり、微笑ましい光景も見られました。特に全日本の選手が今回着ていたユニフォームや各国選手のサイン入り色紙等が当たる抽選会になってからは、あちこちで歓声が上がり、宴たけなわという感で進行していきました。やはり人気があったのは日本、韓国の選手達で、ファンも行き交い、他チームの選手は言葉が通じにくいのかやや退屈そうでした。こうして2時間という限られた時間ではありましたが盛況のうちに散会となりました。

選手の皆さんは直前まで試合があり、バス移動後のパーティーということで大変お疲れだったと思いますが、ファンにとっては試合以上にハンドボールを身近に感じる事が出来、楽しいパーティーだったのではないかと思いました。

このような選手、役員、一般ファン等が一同に会し、パーティーを開くという画期的なプランは大人から子供まで広くハンドボールを知ってもらいたいという底辺拡大普及の構想があったからだと思います。この大会で「ハンドボールがこんなに格闘的で、すばやい動きの応酬で、激しく且つおもしろい魅力的なスポーツだと知らなかった。ファンになった。」という声をたくさん聞きました。この声にどう対処していくかにこれからがかかってくると思います。もちろん選手の技術や意識も世界レベルに発展させていかなければならないし、また、それを支えるファン層も増やさなければいけません。それが今、学校で、クラブで頑張っている子供達の夢につなぐものでないといけないと思います。

この大会だけでなく、これからもこういった趣向の催しを形が変わっても持ち続けていただきたいと思います。今後の為にもちょっと気になった事を書かせてもらいます。

まず、パーティー開始時刻を早くすべきです。今回は試合時間の関係でやむを得なかったのですが、生徒・児童を参加の対象に入れているのであれば遅すぎると思いました。次に、このパーティーの主旨が大会関係者だけでなく選手・役員にも理解できていたのかな？　という疑問があります。ファン中心か、選手中心なのか難しいところですが、もっと早く策を練っておくべきではないでしょうか。主催者をサポートする我々にとっては具体的な話が前日にまとまるようでは心配な面が多々ありました。時間があれば……という事がいくつかありました。





いずれにしましても、この大会を近畿一円で開催し、兵庫県も神戸・三田・高砂と3会場にまたがって行うという話が持ち上がり、具体化されてから1カ月半という短い期間で準備し大会を迎えました。いろいろな方々のご尽力ご協力のもとで無事終了させたわけですが、現場を動かす者にとってもっと時間がほしかったです。ゆとりをもってもっと緻密に計画を練りたかったのが本音です。そうすれば日本協会の意図している事を効果的に発展出来たのではないかとも思いますし、このパーティーももっともっとすばらしい事が出来たのではないかと思います。

この原稿を依頼されたものの私も全体の気配りや関係機関の方々への挨拶まわり等でゆっくり落ち着くことが出来ませんでしたので見落としている面もあるかもしれませんが、私にとってはあっという間の2時間でありました。これで良かったのか、という面もありますが、初めての趣向にしては盛り上がり大成功だったのではないかと思いました。　(兵庫県ハンドボール協会・丸茂康子)

モンゴルハンドボール連盟と交流

今東アジア大会にモンゴルハンドボール連盟より、会長と専務理事が来日し、大会の視察とともに、アジア各国、並びにＩＨＦ役員との交流を深めました。

来日したのは、会長のジャルガルサイハン氏と専務理事のバトドールガ氏。「今回ハンドボール競技をみて、いままではバスケットボールに近いものだと思っていたが、間違いとわかったのですぐに直したい。子供の交流をして、子供達にいろいろなことを学ばせたい。近い将来国際大会に参加したい。」などと、モンゴルのハンドボールの普及に意欲を高めていました。

また、体育施設と教育にも興味をしめし、大阪体育大学の山崎先生のお世話で、大阪体育大学の施設と授業を見学しました。

❖モンゴルハンドボール連盟の紹介

モンゴルハンドボール連盟（以下ＭＨＦ）は2000年３月に、モンゴルの首都ウランバートルに設立され、モンゴルのハンドボール競技者達を、国際ハンドボール連盟（ＩＨＦ）の競技会へ広く参加させるという目標に基づき、モンゴルオリンピック委員会にも認可された、非政府組織です。

ＭＨＦはモンゴルオリンピック憲章とＩＨＦの規則に則り、モンゴル国内のすべてのレベルのハンドボール競技者達の発達に寄与する為に、また国内の公式競技会を発展させていくだけでなく、モンゴルの競技者達のＩＨＦやＡＨＦ主催の大会への参加の可能性を大いに与えていく為に、その諸活動を行っていきます。

モンゴルのハンドボールの歴史は、1979年、何人かのロシア出身のトレーナー・コーチが人々の間でハンドボールを教えようとしたことに端を発します。しかし、残念なことにその試みは失敗に終わりました。

しかし、1990年の民主革命後、モンゴル人たちの間で、とくに学校や若者の間で、ハンドボールが行われるようになったのです。われわれは、年に４回、ジュニアの大会を開催することにしました。

近年、われわれは最初の冠大会を催し、約200名のジュニアの選手が参加しました。

われわれ連名の目的は、オリンピックやＩＨＦの規定に基づく各世代の競技者の、国内や海外での大会への参加を手助けし、ハンドボールというスポーツが国内でより発展するよう取り組み、人々がより健康になることを目指し、ハンドボール競技者の権利を守り、主張し、そしてハンドボールというスポーツのポリシーを満たし、達成していくことであります。

1997年から、モンゴルのハンドボール競技の発展を目的として、われわれはモンゴル国内放送の名をお借りして、毎年男女ジュニアの大会を開催しております。

今日では、モンゴル国内で、約300人ジュニアがコンスタントに活動し、男子12チーム、女子９チームが、ウランバートルのみに限られてはいますが、ＭＨＦ主催の大会に参加しております。われわれは、これを更に拡大をし、大学生の間にも発展させて行きたいと思います。また、ＭＨＦはＴＶやラジオ、プレスや本などさまざまな媒体を通して、ハンドボールを広めていきます。

ＭＨＦの最高機関は常会で、４年に１回開かれます。この会議ではＭＨＦの執行委員が選出されます。この委員会は学校、大学　科学者、教師や協力組織の長で構成されています。

モンゴルのスポーツと体育の国内委員会副議長ジャルガルサイハンがＭＨＦの会長、モンゴル国内放送のディレクターとして働くD. Jagalが副会長、バトドールガが専務理事を努めています。

今回、５月の19日から27日まで日本の大阪で行われる東アジア大会が、二人にとってオブザーバとしての初参加になります。

われわれの目的を実現していく為に、ＭＨＦはモンゴルスポーツならびに体育委員会、教育庁などいくつかの組織と密接な関係を築き始めています。

ＭＨＦはモンゴルオリンピック委員会から承認を受けたメンバーであり、裁判所からも登録番号とともに証明書を与えられています。

2000年11月26日から30日までポルトガルのエストロールで開かれたＩＨＦの28回総会で、ＭＨＦは単一の組織として認められ、そしてわれわれは国際ハンドボール連盟とアジアハンドボール連盟に所属することが認められました。モンゴルはＩＨＦ加盟146カ国、ＡＨＦ加盟32カ国のうちの一つとなったのです。

（安田寛訳）

❖日本のハンドボール協会の皆様に

我々を御招待いただき、また東アジアスポーツ競技大会を見学させていただきました事に対し、モンゴルハンドボール協会の代表者として深甚の謝意を示したいと存じます。東アジア競技大会、就中ハンドボールの試合は特に興味深く、われわれにとって初めての試合見学で、競技規則、判定、組織等多方面で実に多くの事を学びとることができました。日本のハンドボール協会と大阪ハンドボール協会の皆様がともに献身的にお世話下さり、種々御相談いただきましたこと、なお且つハンドボールの器具、用具、諸材料を御寄賜りました事を大変嬉しく存じております。心よりお礼を申し上げます。皆様方の御援助と御厚情はハンドボールに関心を抱くモンゴルの子供達に必ず大いなる貢献を果たし、夢を与えてくれるものと信じます。

モンゴルのハンドボール協会と日本のハンドボール協会の友好親善、並びに両国ハンドボール協会の更なる発展を確信致しますとともに皆々様の今後のすばらしき成果を心よりお祈り致します。

モンゴルハンドボール協会
副博士　D．ジャルガルサイハン
書　記　N．バトドールガ
（以上　荒井伸一訳）

高松宮杯第42回全日本実業団ハンドボール選手権大会 開催地の変更について

本年度の全日本実業団ハンドボール選手権大会は、周知の通り、大阪で７月12日（木）から15日（日）まで開催される予定であった。ところが急遽開催地を熊本に変更して開催されることになった。その経緯は以下のとおりである。

大阪ハンドボール協会は、２年前に全日本実業団ハンドボール連盟から開催依頼の打診があった。大阪協会は東アジア大会の後であることから当初は難色を示したが、是非ともとの依頼をうけて開催を決定した。会場地として大阪中央体育館を確保し諸準備を整えてきた。

そのような折、実業団連盟も新体制となり、本年度の実業団選手権大会に対して大会を活性化すべく要望が示された。その内容は、観客を動員すること、予算が赤字にならないこと、選手がやる気になる企画をすることなどであった。

大阪協会としては、より充実した運営をすべく準備してきたが、観客を動員することについては、大会開催期間が中高生の試験期間にぶつかるために、要望には応えかねると判断した。

その後のやり取りのなかで大阪協会と実業団連盟との間で、開催の受諾を巡って意見の食い違いが生じた。大阪協会としては、要望に完全に応えられないものの誠意を持って実施する意向をもっていたが、実業団連盟としては、大阪協会が大会開催を返上したものと判断し熊本へと開催地を移した。この件の混乱を解消すべく実業団連盟より大阪協会等に対して謝罪がなされている。今後とも各種大会の開催を契機として関係する諸団体等が意志疎通を十分にはかり協力関係のもとに力を蓄え、ハンドボールの発展に寄与していくことが求められます。

連載 14

NTS2001
運営組織&スタッフメンバー

(財)日本ハンドボール協会
NTS運営委員会　委員長　蒲　生　晴　明

2001年4月に2001年度第1回のジェネラルミーティングを開催致しました。

この会議では、2001年度の運営全般についての検討を実施し、各ブロックへ主旨展開をするための準備として実施致しました。当然のことですが、昨年度の反省を基にして計画立案をして承認されました。前月号には、その内容を掲載致しましたので参照して下さい。今回は、その運営を実施していく組織とそのスタッフメンバーを紹介いたします。

2001年度の運営組織については、2000年度と大きくは変わりませんが、別表のとおり各ブロックからNTSブロック技術委員長を選出していただきました。NTSブロック技術委員長は、運営委員会のメンバーとしても承認されましたので、日本協会サイドから各ブロック協会サイドへの展開をスムースに実施していくことが出来るようになりました。さらには、都道府県協会から各々技術委員長を選出していただき、日本協会→ブロック協会→都道府県協会の流れをスムースにしていきたいと考えております。本年と次年度は別表のスタッフで運営していきますので、ご協力よろしくお願い致します。

いずれにいたしましても、昨年度1年間ハンドボールを愛する皆様のご支援を頂きまして、NTSを実践していくことができ、また多くの評価と課題を見つけ出すことができました。日本のハンドボール界は多くの諸先輩方々の永年の努力とその残された実績があって今日21世紀を迎えることができたわけで、その基礎に立って21世紀に新たなる

2001 ナショナルトレーニングシステム運営委員&ブロック役員一覧

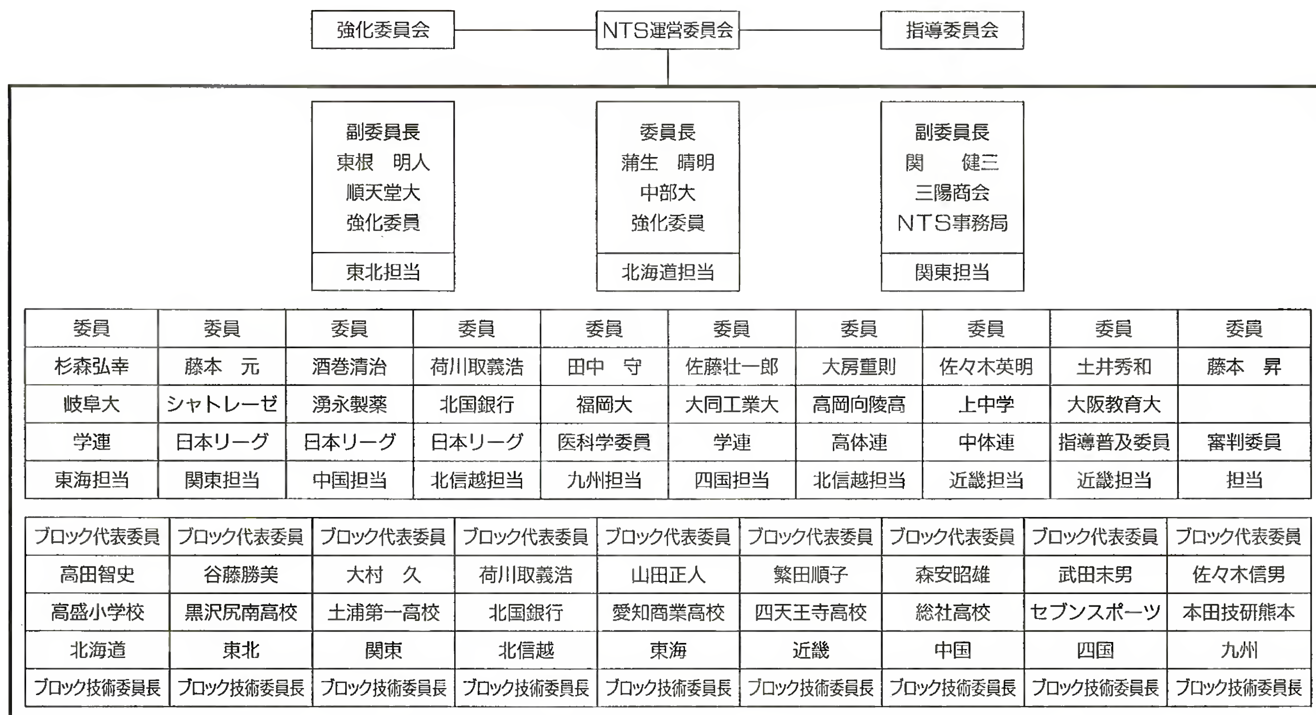
日本ハンドボール協会担当理事　　角　常務理事
日本ハンドボール協会担当理事　　緒方常務理事
日本ハンドボール協会担当理事　　市原常務理事

ブロック	運営委員	ブロック技術委員長（運営委員兼務）	コーディネーター
北海道	蒲生　晴明（中部大）	高田　智史（高盛小学校）	松　喜美夫（函館大）
東　北	東根　明人（順天堂大）	谷藤　勝美（黒沢尻南高校）	志賀　良弘（日立栃木）
関　東	関　　健三（三陽商会） 藤本　　元（シャトレーゼ）	大村　　久（土浦第一高校）	松井　幸嗣（日体大）
北信越	荷川取義浩（北国銀行） 大房　重則（高岡向陵高）	荷川取義浩（北国銀行）	荷川取義浩（北国銀行）
東　海	杉森　弘幸（岐阜大）	山田　正人（愛知商業高校）	高村　誠一（大同特殊鋼）
近　畿	佐々木英明（生駒南中） 土井　秀和（大教大）	繁田　順子（四天王寺高校）	宍倉　保雄（大体大）
中　国	酒巻　清治（湧永製薬）	森安　昭雄（総社高校）	酒巻　清治（湧永製薬）
四　国	佐藤壮一郎（大同工大）	武田　末男（セブンスポーツ）	奥田　新治（香川銀行）
九　州	田中　　守（福岡大）	佐々木信男（本田技研熊本）	西窪　勝広（オムロン）

施策を立案し、実行に移していかなければなりません。NTS運営委員会も、強化委員会・指導委員会との両委員会のご協力を頂きながら、日本ハンドボール協会の「競技者育成プログラム」(JOC：GOLD　PLANでの位置付け)として将来のトップアスリート育成強化&指導者の育成、ハンドボールの普及のために努力致していかなければなりません。従いまして、日本全国のハンドボール関係の皆様のご支援ご理解ご協力がなにより必要でありますので、本年もご指導下さいますようよろしくお願い致します。

ナショナルトレーニングシステム（NTS）2001 運営委員会組織

日本協会担当理事
・市原常務理事
・角　常務理事
・緒方常務理事



強化委員会 — NTS運営委員会 — 指導委員会

副委員長	委員長	副委員長
東根　明人	蒲生　晴明	関　　健三
順天堂大	中部大	三陽商会
強化委員	強化委員	NTS事務局
東北担当	北海道担当	関東担当

委員	委員	委員	委員	委員	委員	委員	委員	委員	委員
杉森弘幸	藤本　元	酒巻清治	荷川取義浩	田中　守	佐藤壮一郎	大房重則	佐々木英明	土井秀和	藤本　昇
岐阜大	シャトレーゼ	湧永製薬	北国銀行	福岡大	大同工業大	高岡向陵高	上中学	大阪教育大	
学連	日本リーグ	日本リーグ	日本リーグ	医科学委員	学連	高体連	中体連	指導普及委員	審判委員
東海担当	関東担当	中国担当	北信越担当	九州担当	四国担当	北信越担当	近畿担当	近畿担当	担当

ブロック代表委員	ブロック代表委員	ブロック代表委員	ブロック代表委員	ブロック代表委員	ブロック代表委員	ブロック代表委員	ブロック代表委員	ブロック代表委員
高田智史	谷藤勝美	大村　久	荷川取義浩	山田正人	繁田順子	森安昭雄	武田末男	佐々木信男
高盛小学校	黒沢尻南高校	土浦第一高校	北国銀行	愛知商業高校	四天王寺高校	総社高校	セブンスポーツ	本田技研熊本
北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州
ブロック技術委員長	ブロック技術委員長	ブロック技術委員長	ブロック技術委員長	ブロック技術委員長	ブロック技術委員長	ブロック技術委員長	ブロック技術委員長	ブロック技術委員長

インストラクター	インストラクター	デモンストレーター		
冨本　栄治（大同特殊鋼）		大同特殊鋼	函館大	
首藤　信一（大崎電気）	田口　侑義（ムネカタ）	日立栃木	大崎電気	ムネカタ
藤本　元（シャトレーゼ） 首藤　信一（大崎電気）	志賀　良弘（日立栃木）	大崎電気 日立栃木	シャトレーゼ	日体大
金　明恵（立山アルミ）	角谷喜代重（北陸電力）	北国銀行	立山アルミ	北陸電力
橋本　行弘（本田技研） 岡部　哲也（トヨタ車体）	田中　俊行（ブラザー工業） 三輪　澄高（トヨタ）	大同特殊鋼	本田技研	ブラザー
橋本　行弘（本田技研）	長田　健嗣（大阪ガス）	本田技研	大体大	
林　五卿（イズミ）	湊　勝利（トクヤマ）	湧永製薬	イズミ	
佐藤壮一郎（大同工大）		香川銀行	湧永製薬	
佐々木信男（本田熊本） 田中　守（福岡大）	小俣　訓子（ソニー国分） 元島　邦彦（アラコ）	オムロン アラコ	本田熊本	ソニー国分

小学生チーム活動特集 その7

小学生クラブの活動報告をご紹介いたします。

■延岡東ハンドボールクラブ（宮崎県）

① 団体名・指導者名

総　称：延岡東ハンドボールクラブ

男女別に試合に出るときは、

延岡東ボーイズ（ガールズ）ハンドボールクラブ少年団

指導者：総監督　宮島　幸

コーチ　和田保典・和田清子・井本耕平

所在地：延岡市出北５丁目８―15

延岡市立東小学校

② 団員数

６年生	男子７名・女子４名
５年生	男子１名・女子２名
４年生	女子５名
３年生	男子１名・女子６名
２年生	男子１名
合　計	男子10名・女子17名

③ クラブ発足の経緯

平成８年に日本ハンドボール協会普及委員の秋田大学佐藤靖先生より依頼があり、学校体育の中で５年生の授業として延岡東小学校にてハンドボールを実践したことをきっかけに、当時の５年生を中心に臨時にチームを作って県内の交流大会に参加したことから子どもと保護者を中心に熱が高まりました。それを受けて、翌平成９年の４月に、延岡東ハンドボールクラブとしてチームが発足。それから５年目を迎えましたが、その間、平成11年には男女揃って全国大会に初出場し、男子ベスト８・女子第４位入賞、その年の九州大会でも男子ベスト８・女子５位。平成12年には女子が全国大会で２年連続第４位、九州大会でも男子５位・女子４位と着実に力をつけています。

しかしながら、今年の春に監督の和田保典が市内の別の学校に定期異動したために、今年度は保護者のバックアップを一層強めるべく、保護者会会長を総監督にし、和田保典と妻の清子が外部コーチとして二人三脚で指導に当たっています。

④ 指導に当たっての留意点

大きく２つのことに気を配っています。まずは「楽しむ」ことです。スポーツですから、楽しまなければ続きません。楽しむためには、目標に向って努力することも必要だと思います。その為に、練習内容にはバリエーションを加えながら変化をもたせて飽きが来ないようにしています。例えばパス練習の代わりに鬼ごっこの要素を入れたパスゲームをしたりすることで、楽しみながら技能が身につくように配慮しています。同じに、相手に勝つことで楽しさや喜びも生まれますから、勝敗を意識した内容も取り入れるようにしています。その上で、みんなが楽しみながら共通の目標に向って努力していけるようにしています。

２つ目は「考える」ことです。指示待ちになってしまっては練習はもちろんゲーム中にも自分で判断する力が育ちません。ですから、練習中のプレーや紅白戦、練習試合を通して、まずは自分たちで考えさせる、必要に応じて説明する、納得させてから練習に取り組ませるようにしています。



⑤ 部員確保への取り組み

同じ学校の児童だけのクラブですからどうしても友達・兄弟関係での入部が多くなります。また、学校内には他にも野球・サッカー・バレーをはじめとしたクラブが存在し、その中でもハンドボールクラブに対しては、強いけれどもきついというイメージがあるようです。今までは部員を通しての勧誘が中心でしたが、今年度は監督が異動したこともあって、保護者会の方で勧誘のチラシを作成し、楽しさやハンドボールをすることのメリット（運動会で活躍できる・大きな大会に出場するチャンスが多いなど）を掲載し

て勧誘することにしています。

⑥ 地域社会・学校とのかかわりについて

総合型地域スポーツクラブの創設が盛んに言われるこの頃ですが、現状は学校の児童に関係する社会体育はそれぞれが別個の存在であり、横の連携はよくありません。むしろお互いにライバル視さえしている状況です。また、学校側も社会体育とは一線を引いており、単に場所を提供しているにすぎません。

そこで今年度は、まず縦の連携をとるために、子ども達の進学先の中学校（延岡中）ハンドボール部との合同練習会を計画しています。もともと私たちのチームの卒業生が同好会として活動し、平成12年に部として発足したばかりですから連携はとりやすいものがあります。さらに、地元の他の小学校、中学校（それぞれ１チームずつ）と高校も含めての合同練習会を計画中です。そうすることで、子ども達が将来的にチームのある学校に進学してくれれば幸いですし、高校生・中学生にとっても、下の子ども達に教えることは、自分のプレーの基本を見つめなおす上でも貴重な経験になると考えるからです。



また、単にスポーツの活動だけでなく、奉仕作業やボランティア活動にも参加することで心の成長も促していきたいと計画しています。

⑦ 練習メニュー

時刻	時間	内容
16：30	20	準備・ストレッチ・ランニング
	10	フットワーク
	15	対人パス・三角パス
	15	シュート練習
17：30	30	1対1・2対2
18：00	35	ミニゲーム
18：35	10	片づけ・反省

⑧ 他の団体指導者への助言等

小学生のチームですから、基本的にはハンドボールを好きになって欲しいものです。その上で他のチームの子ども達と友達をたくさん作って欲しいと考えます。ですから、練習試合に行っても、試合をするだけでなく、ハンドボールをする仲間としての輪を広めて欲しいものです。

⑨ 今後の目標

今年度も、まずは全国大会への出場が大きな目標となります。昨年、男子はわずか１点差で涙をのみましたが、去年からのメンバーも数名残っており、横のつながりもいいので期待が持てます。女子については、昨年のメンバーとは一新しましたが、先輩たちの伝統を守るべく努力しているところです。大きな大会に出ることはもちろん目標の一つですが、将来的にはハンドボールを愛し、生涯スポーツとして続け、いつか地元に帰ってきて指導者になってくれればと思います。また、延岡東ハンドボールクラブの１期生が今年初めて高校に進学しましたので、これを機会に小・中・高の３世代でＯＢ会を計画し、保護者のＯＢ会も合わせて末永いクラブとして活動を続けていきたいと考えています。

（和田保典記）

新クラブ旗揚げに期待

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw（フリースロー）

初のアジアナショナルサーキット2001につづいて東アジア大会と国際大会が開かれた。結果としては目標を達成出来なかったのは残念だったが、新生ジャパンとしては、それなりの収穫があったのではないだろうか。04年のアテネ五輪へ向け、さらに強化に励んで、とにかく本番の舞台を踏んでもらいたいものである。

さて、昨シーズン限りでまたひとつ歴史をつくってきたチームが姿を消した。三陽商会である。27年にわたって活動してきただけに寂しさは隠せない。これで幾つのチームが日本リーグを撤退しただろうか。２年前の中村荷役、その前の日新製鋼…。数え上げればキリがないほどだ。

またひとつ―といったが、関係者の熱意と努力が実って、新しいクラブを設立し「ＨＣ東京」として再出発をした。日本協会も支援の手を差し伸べて、日本リーグ２部加盟を認めた。

これまでは企業チームが活動を停止すると新たな移籍先を探すか、消滅してしまうのがほとんどだった。しかし、最近ではそのような甘えは許されない。あのバレー界の名門日立にしてもである。

それだけに今回の「ＨＣ東京」の旗揚げは今後のひとつの新しい道を方向づけたといえるだろう。21世紀のクラブ形態といってもいいかもしれない。もちろん運営には困難もつきまとうかもしれない。スポンサー探し、サポーターの会費等で賄うことになるが、早くしっかりした土台が築かれることを願っている。

「愛され、強く、そして開かれたクラブ」をスローガンに掲げたが、どのような活動を続けていくか。期待と同時に、今後の指標となるものではないだろうか。

この成功があってこそ、ハンドボール界が新たな道を歩むことになるかもしれないし、他の同じ境遇に直面したチームにとって心強いものになるだろう。

このような方式、いわばスポーツクラブの誕生は、ハンドボールだけに限らず、多くの競技団体で模索している。アイスホッケーしかり、バレーボールしかりだ。これらの成功なくしては、日本のスポーツ界発展の期待はないのではないだろうか。

これからも日本リーグ撤退、あるいはクラブ化させて残留＝生き残りを図るチームが出てくることは十分に予想される時代である。そうしたチームを“援護射撃”するためにもぜひ『ＨＣ東京』が成功を収めることが待たれるのだ。

欲を言えばＪリーグ並みの下部組織を持ったクラブに育つことが理想だろう。企業だけでなく、行政、財界、地域住民などが手を携えて“自分達のチーム”を支えることこそ、存在感が強くにじみでてくるからだ。新たな道を歩みはじめた「ＨＣ東京」はあらゆる面から、日本スポーツ界の注目を集めていることだけは間違いないところである。成功を祈りたい。

ANA

※貯めたマイルは、航空券に換えてからご利用ください。

ANA MILEAGE CLUB

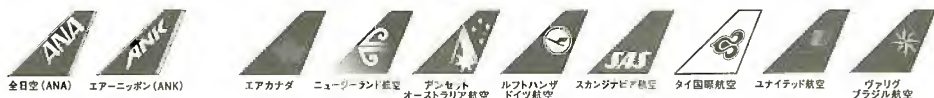
PICK ME UP!
ENOUGH MILES!!

The MILEAGE of MILEAGES

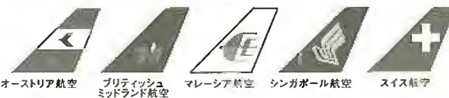
ネットワークがひろがって、マイルがさらに貯めやすく、使いやすくなりました。

今、全日空の空が大きく広がろうとしています。充実した国内線はもちろん、国際的な航空会社ネットワーク「スターアライアンス」への加盟により、国際線もさらに拡大。マイレージも、ぐっとワイドに貯まります。選ぶなら、やっぱり「ANAマイレージクラブ」。貯めやすさが断然ちがいます。

*スターアライアンス加盟の提携エアライン



*スターアライアンス以外の提携エアライン



ANAマイレージクラブ

10月31日 全日空は、スターアライアンスに加盟。世界112ヶ国以上、760以上の都市をネットワークで結びます。

・人・物・登・場・～そのとき活躍した人々～

「人物登場」今月登場していただくのは…

光島　磯雄 さん

(昭和６年12月18日)



日体大卒業後、大阪府教員、その傍らで西日本日体ＯＢのＧＫとして全日本選手権に優勝。日独親善大会には全日本の一員として出場した。その後、大阪イーグルスに所属し各大会で活躍する一方、昭和53年には国際審判員に。イタリア・テラモ大会、インドのアジア大会などで吹笛。のちにＩＨＦアジア地区委員となり、国際大会や、ＩＨＦのシンポジウム・総会などに、幾度も参加をした。

ハンドボールとの出会いについて教えて下さい。

敗戦という厳しい現実の前に誰もがうちひしがれていた時代、新しく着任された藤田八郎先生の誘いで何がなんだかわからぬままソウキュウブなる運動部に入ったのはもう半世紀も前。時は昭和22年の初め頃、裸足に長ズボンをカットした半パンツ、ワイシャツの古着をまとい、チェンジパスの練習から始まりました。ボールはすぐに皮が伸びて変形、空気を入れて皮紐で締めて閉じるがしばしば中のチューブを突き破り、慌てて自転車屋に走り、挙句の果てには、上級生のいびりやシゴキのタネになったこともありました。ゴールポストのバーに跳びつけなかった私も、優秀な先輩の卒業後ＧＫとなり、面倒見の良い先輩がいつも鍛えてくれたが期待に添えず叱られてばかり…。高一の頃はハンドボールが面白いとは思えませんでした。その頃藤田先生の友人、先輩のチームが来校し練習試合をしてくれたのですが、その中に、今やハンドボール界の最長老となられた徳永陸繁先生がＦＷとしてプレーされて、そのフェイントモーションにキリキリ舞いさせられたことを思い出します。高一の福岡国体で天王寺高校のプレーのモダーンさに驚き、二年次の東京国体では、花畑平男氏が、男子の決勝で今でも十分に模範となるような明確で公正なレフェリングをされたのを見、三年次には第１回の高校全国大会で隅田川高校の新村理文氏とも試合をしました。卒業後、日体大へ進学。当時は早慶立が強く、苦杯をなめたこともありますが、今となっては青春とは顧みて苦笑いすることと実感。卒業後、縁あって大阪教員となり、村田弘先生はじめ諸先生の薫陶をうけ、大阪イーグルスを結成し各大会で好成績をあげました。われわれクラスでは富山氷見の金原至氏がピカ一的存在で、誇りでもありましたね。

ハンドボールを通じて、忘れられない思い出を教えて下さい。

昭和31年９月に、日本ハンドボール関係者の長年の願望であった西ドイツチームの来日が実現し、私も縁あって全日本の一員として試合にも出してもらえました。聞くだけだった実物本場のプレーはスマートで大きくて速くて強く、感嘆の連続。このとき監督兼レフェリーとして来日したウェルナー・フィック氏が昨年82才で死去されました。親切のかたまりといえる人でした。夫人に心からのお悔やみを申し上げました。「ハンドボールを知るにはドイツ語によることが一番」そう考えた私は昭和31年からドイツハンドボール週刊誌（ＤＨＷ）を購読。何とか読めるようになりたいと思い、40歳を過ぎてからドイツ語学習を始めました。週二回夜学に通い、若い人に混じってアーヴェーツェーから始め、初歩テキストの丸暗記をしに夜の国道を歩いたこともありました。昭和47年、ミュンヘンオリンピックにおいて自己研修を計画し、実行しましたが、過去の来日メンバーや、同年に来日したキールやダンカーゼンチームの歓迎を受け、ひとかたならぬ世話になりました。日本協会の研修担当員として、ＩＨＦのシンポジウムに参加したときや、大阪高校選抜チームをドイツに引率したとき、そして大阪とハンブルグ両市の交流にしても、現地で絶大な支援を受けることができたのは、不完全ながらドイツ語学習の成果と言えなくはないと思います。思えば高くつく趣味ですがね…。

最後に、今の日本ハンドボール界へ望むことは何でしょうか。

すべて一芸一能を得るには、根気と粘りが必要です。ＩＨＦは今後、使用外国語の第一国語を英語とするようですが、今後もなおドイツ語系の先端研究資料が主力となるでしょう。英語が第一になったから楽だというのは明らかに外国語学習の軽視。今後、若い人に奮起を促したいです。私個人は、レフェリー部門出身者としては超ＯＢ年齢ですが、現在も頭の体操と思ってレフェリー関係の資料の翻訳に取り組んでいます。知識の先取りができるよう、これからも努力は惜しみません。これらはできるだけたくさんの人々に読んでほしい。大きなルール改正も予定されています。また将来、日本人からこの種の研究論文が出ることを願ってやみません。今までもボランティーアでやってきたことが多いですが、アテネ出場を目指し、レフェリー部門に限らず、自発精神による寄与貢献が重視されなければならないでしょう。協会新理事諸氏には、長い混迷からの脱出に向け、任期中最大最高のご努力・ご専念を期待してやみません。これこそ全ハンドボール人究極の望みでしょう。最後に、この場をお借りして、すでに鬼籍に入られた方々にご挨拶を申し上げることをお許し下さい。

「愚直でもよい、驀進的情熱でハンドボールを。」

光島さん、ありがとうございました。次号もお楽しみに。

千葉県ハンドボール協会創立50周年記念

千葉県ハンドボールユース選抜チーム ドイツ訪問記

千葉県ハンドボール協会副会長　**稲生　茂**

2001年3月28日朝7時30分に集合して、選手団40名で一路ドイツに向けて出発しました。

飛行機の中では、シベリアの雪を見ながら12時間かけて、フランクフルトに到着、飛行機を乗り換えてライプチヒに向かって、ドイツ時間で5時30分に降り立ちました。そこから1時間かけてマクデブルグに向かってブンデスリーガを観戦しました。実に感動した、素晴らしい試合でした。

3月29日は午前中市内見学をして、午後いよいよ練習です。女子はHCLのコーチに指導を受けて変則ハンドボールと、ゴールキーパーの指導を受け、夕方からハーツーエルのトップチームの試合見学に行きました。男子はナショナルの卵、女子はドイツ代表にふさわしい選手の集まり、一人一人選手として自覚ある練習姿勢に感心します。男子は夕方からモゴノーというチームの同年代選手と合同練習をしました。

3月30日もドイツのコーチに指導を受け、ドイツの選手も一緒にプレーをするようになり、ドイツの選手のハンドボールを楽しむ姿には見ていてあこがれ、日本選手も彼らのスポーツに対する取り組みを参考にして、ぜひ目標にしてほしいと思いました。

3月31日は午前中女子、午後男子が元東ドイツのヘッドコーチにトレーニングを受けました。午後からドレッセンに出かけまして、6時からリーグ4位のコンコルディア・デーリッチとEVSドレスデンの試合を見ることができました。4部の試合とは思えないレベルの高い試合で両チームとも2mを越す選手が2、3人はいて、しかも年齢は17歳か18歳だそうです。そのまま日本に来て日本リーグに参加したら優勝しそうなチームです。

そして、その中に日本の選手がいました。名前は植松伸之介選手で横浜商工高校から順天堂大学に進み、神奈川国



体で活躍した選手です。年収300マルクで挑戦したプレーにはハングリーな場面がいっぱいあって、私の印象では学生時代よりはプレーが上達していました。これからも活躍を期待します。

4月1日はこの親善訪問の最大の目的の親善試合です。

男女共日本のチームを入れて、4チームづつ参加の20分ハーフのゲームです。

試合は男子から始まり、モゴノー、ライプチヒ、ビスムート・アウエ、リュックマルスドルフの3チームと対戦して、体力の差が出て敗れてしまいました。

女子はHCL・1とHCL・2とSSV・シュテッテリッツと対戦して、緻密なハンドボールで6ゲーム中5ゲームに勝ち、4チーム中2位という結果でした。

試合後、ドイツの選手と夕食会を兼ねて懇親パーティーを開きました。最初は言葉が話せませんので、互いに遠慮気味でしたが、1時間ぐらい過ぎて、一部の選手の親が迎えに来ました。そして、一部の選手が帰った後から急に交流が活発になって、サインの交換、写真撮影と2時間ぐらいが瞬く間に過ぎて、別れがたい両国の選手に、もうこれで終わりだと告げて、ホテルに10時ごろに帰ってきました。実に楽しい懇親会でした。

4月2日は観光でドレスデンのツィクガー宮殿、ザイセン王の歴史、マイセン焼きなどを見て、夕方はライプチヒのスポーツギムナジウムの学生寮を訪問して、学生達と親しく話すことができました。

4月3日は一路ポツダムに向い、ポツダム宣言で有名なセッシリアを散策しながら歴史的場所で一時を過ごしました。その他とサンスーシー宮殿の優雅さを体験して午後はベルリンの壁を直に見て、最後は雨のベルリンで買い物に夢中になった役員、選手でした。

協会創立50周年記念行事のドイツ親善試合はスポーツの意識に大きな影響を受けました。

どんな影響か報告しますと、子ども達が心の底からハンドボールを楽しんでいるということ、その子ども達を指導者が全面的に指導し、援助し、目的達成のために協力、努力していること、そして我々が訪問して感じたことだが、ハンドボール仲間は世界の仲間、暖かく迎えてくれ、ともにハンドボールを楽しみスポーツを共有しようという心を感じました。ドイツのスポーツの深さを感じます。

また、機会がありましたら訪問したいと考えています。

▼千葉県ハンドボール協会ドイツ親善試合名簿

【役員】

役　職	氏　名
会長　団長	谷田川　元
	谷田川　祐理子
副会長	本間誠章
理事長	稲生　茂
男子監督	河村英明
女子監督	笠原利宏
総務	東根明人
男子コーチ	柴田雄二
女子コーチ	石川常登
男子コーチ	泉水孝浩

【男子】

番号	氏　名	所　属	学年
1	新井修平	東邦高校	2
2	市倉祥広	〃	2
3	高根優介	〃	2
4	栗田基秀	〃	2
5	加藤隆生	〃	2
6	神下耕平	〃	2
7	幡場龍一	市川高校	2
8	渡部祥平	〃	2
9	長野仁志	東京学館高校	1
10	池畑　慧	市川高校	1
11	川浦正大	八千代高校	1
12	田中直樹	市川高校	2
13	高見勢篤史	八千代高校	1
14	木本祐希	東邦高校	1
15	田中義人	〃	1

【女子】

番号	氏　名	所　属	学年
1	星野那奈	柏陵高校	2
2	宮田知香子	昭和学院	2
3	井手香織	〃	2
4	祖父江美佐	〃	2
5	南雲愁子	〃	1
6	市場美穂	〃	1
7	高橋映美	〃	1
8	高橋知代	〃	1
9	藤原房子	東邦高校	2
10	向後祐香	佐原高校	1
11	海保貴子	市川一中学	3
12	栗原なつ美	昭和学院	1
13	須賀美幸	市川一中学	3
14	増田　睦	〃	3
15	佐々木　彩	東邦中学	3

パッシブプレーの評価に関するルール解釈について その2

PRC　マンフレート・プラウゼ
CCM　ディートリヒ・シュペーテ
翻訳　清水宣雄
光島磯雄

組立の局面（図４）

図４では、ボールを保持したチームが、組立局面を始めることができる２つの基本的な状況が、初めに区別されるべきである。

①攻撃の位置取りに続く組立の局面（図４の左半分）

速いプレー（速攻、速いスローオフ）でボールを進めたにも関わらず、決定的なシュートを生み出せなかった場合には、攻撃プレーヤーは、中止の後で最初のパス回しのための位置取りをし、体制の取り直しをしなければならない。

パッシブプレーのルール解釈では、次のことが重要である。

速いプレーで位置取りしたチームは、中止の後レフェリーにパッシブプレーの始まりを認識されることなく、選手交代が認められなければならない。

状況：プレーヤーの交代は、速やかに行われなければならない。

実際の試合では、しばしばこれが誤って理解されていることがある。：最近、大部分のトップチームが、速攻から中断なしに、防御に対して体形を整えて（速攻の３波）、活動的な攻撃を続けようとしている。決定的チャンスを作り出せなかったときには、プレーヤーを交代させてから組立の局面に入らなければならない。

一方、速いプレーを伴わないボール展開で位置取りをした場合は、区別して評価しなければならない。位置取りをする間、チームは交代を済ます充分な時間がある。

重要：ボールを進める間、すべてのプレーヤーが攻撃の位置に向かって、センターラインを越えたならば、以下の場合にレフェリーは予告シグナルをすみやかに出すべきである。

・相手チームからのプレッシャーがないにも関わらず、ボールを自分のコートに戻す
・プレーヤーが一個所でドリブルを続け、そして
・交代を待っている

攻撃チームがパス回しを始め、組立の局面に入ってからの、遅れた交代にも予告シグナルを出すべきである。

位置取りと、それに続く組立の際のボール運びも、組み合わせて検分しなければならない。戦術的な理由からプレーを遅くしたいチームは、この方法で時間を稼ぐことができる。レフェリーは、この傾向が認められたならば、予告シグナルを出すことで、速い対応をしなければならない。

②不成功の攻撃の後の（再）組立の局面（図４の右半分）

既に相手のコートでフィニッシュの局面の体制を取ってから、不成功の攻撃の後で、組立の局面を評価することは、非常に難しい。本質的に、不成功の攻撃の後では、どのチームにも新しい（再）組立の局面の権利が与えられなければならない。

・前のポジションに戻った後、次の攻撃のために、最初の隊形が回復されなければならない。
・プレーのリズムの観点から、大部分のチームが、最初のパス回しで次の組立の局面の準備をする。

ここでは、二つの異なる状況が観察される。

１．ゲームの中断（フリースロー）後の組立局面
２．不成功の攻撃で、プレーを続行しながら（再）組立の局面を始める

レフェリーは、両方の状況を観察し、分けて評価しなければならない。

最初のケースでは、中断中にチームは再構築さえ可能である。勿論戦術的に時間を使おうとするチームは、フリースロー遅らすことで、よい機会とする。例えば

・故意に間違ったフリースローを行う
・最初のパスを遅らす
・遅い実施：ボールを床に置いたままにし、誰もフリースローの位置に着かない、等

二番目のケースでは、不成功の攻撃の後で、プレーを続行しながらチームは再編成しなければならない。勿論、この局面は非常に非活動的である。行き詰まりによる攻撃側の頻繁なポジションチェンジやパス回しは、直ぐに攻撃側がパッシブプレーに入っているのではないかと、レフェリーに疑いを持たせる。ここでの決定的な疑問は：このような組立局面では、どれくらい時間をかけることが許されるのか？

今までこの分野では、非常に一般的な観察基準しか、レフェリーに与えられていなかった。

例えば：

ポジションからポジションへのパスの回し方（サイドからサイドへ最大１回）。パス回しを定義するこの方法で、プレーを標準化することなど不可能であるのだから、この様な基準が実際には活用できないことは明確である。したがって、方針と判定の目安として、以下のような行

図4　パッシブプレーの組立て場面

組立て場面

速攻/敏速なスローオフ	ボールプレー進行から	攻撃側の失策があっても続行される	攻撃側の失策で中断となる
□速攻のテンポを中断する	□攻撃予定ポジションにつく	□ポジションチェンジのあとあらたに組立てなおす	□プレー開始地点をもとにもどす
□プレーヤー交代をする	□フォーメーション的パスプレー		□なんらかのスロー実施（フリスロー・スローイン）
□攻撃予定ポジションにつく		□フォーメーション的パスプレー	□フォーメーション的パスプレー
□フォーメーション的パスプレー			

最終場面・段階

動と時間の基準が提案された。

・最初のポジションに戻るのに、全てのプレーヤーが急いでいるか（走っているか、歩いてないか）？
・攻撃活動で、約５秒以内に明らかなペースの変化（１対１の攻撃、クロスプレーや転換などの戦術的な攻撃の動き）があったか？

特定のプレー状況での方針の目安となる時間の基準は、スポーツにおいては希ではない。例えば、似たようなルール変更が世界クラスのサッカーで行われている：以前はゴールキーパーがボールを受けてから離すまで、３歩までステップできたが、今は遅くとも４秒以内にボールを離さなければならない。「３秒ルール」はハンドボールでも、同じように活用されている。

勿論、サッカーとハンドボールどちらのレフェリーも、ストップウォッチで計っているわけではない。より客観的なルール解釈の目安として、これらの時間設定が考えられたのであり、タイミングが厳密でなかったとしても、レフェリーの責任が問われるわけではない。

これは再組立の局面で、最低５秒の時間が保証されたということである。この時間はハイレベルのチーム、特に男子のハンドボールにおいて、「再組立」の過程を完了させるのに充分である。他のレベルでは、例えばユースチーム、ボールハンドリング技術のレベルの低さに応じて、時間を長くすればよい。これは、レフェリーが調整しなければならないことである。

この様な状況における、防御側の反応も観察するべきである。積極的なプレーで攻撃側のペースの変化を防ぐことが戦術的観点から非常に効果的な戦略となる可能性があるからである。防御側がこの戦略に成功すれば、レフェリーは予告シグナルを出すことで、この積極的な防御プレーを評価するべきである。

フィニッシュの局面（図５）

どちらの攻撃チームも、最終的には得点の機会を作り出そうとしている。これは勿論、プレーの目的でもある。実際には、例えば次のような特別な状況では、

・試合終了間近（最後の攻撃）
・退場中のチームの攻撃（５対６）等

戦略は長い攻撃によって、時間を稼ぐことになってしまう。この様なケースでは、チームが本当に得点の機会を作り出そうとしているのかを見極める必要があり、レフェリーにとって益々難しくなる。

この目的のために、以下の観察判定の基準が必要となる。

①明らかなペースのスピードアップ！

「遅い」組立の局面の後は、プレーヤーは、速いペースで走ったり、移動したり、パスをしなければならない。

②戦術的な攻撃行動が認められるか！

これには、クロスプレーや切り返しの組み合わせと同じように単純な１対１、前方への動き（ゴールに直接向かう）、パスの試みが含まれてよい。

③防御プレーヤーとの「コンタクト」

攻撃行動が、相手チームの防御から分離して行われることはない。防御プレーヤーが以下の行動をした場合のみ「コンタクト」が発生する。

・功劇的な防御活動
・チームメイトのフォロー
・チームメイトからの相手マークの受け渡し

防御側の前で、攻撃プレーヤーがクロスプレーをするのが、頻繁に観察できるが、防御に何の影響も与えていない。相手とのコンタクトがないので防御プレーヤーが活動し難い。この様な場合には防御側が疑問の手を挙げる前に、レフェリーは反応しなければならない。

注　目：

これらの方針の目安は、概して有効であり、チームのレベルに応じて使われるべきである。例えば、男子のハンドボールでは、１対１のプレーが普通であるが、一方女子では、コンビプレーや戦術プレーを基本とした攻撃がより多く使われる。後者は、勿論必然的により時間を必要とする。

④得点を狙うプレー

全ての攻撃行動は得点を狙うべきである。これは、実際の用語では何を意味するのか？

例えば：

攻撃プレーヤーによる１対１は、フェイントによって相手を外し、地域的に有利になることに、成功した場合のみ見込みがある。

レフェリーは、１対１のプレーから攻撃プレーヤーが行き詰まること（フリースローを得ること）だけを狙っているような、次のタイプの活動を明確に区別しなければならない。

・仕掛けても地域的有利ができない
・攻撃プレーヤーが頻繁に、非常に速く接触を止めてしまう
・スローペースの行動等
・レフェリーの「笛」を待っている

これらは、観察の明確な基準となり、レフェリーがフィニッシュの局面で、「消極的な」活動を認識するのに役立つ。

勿論、レフェリーがフィニッシュの局面で消極的な行動を評価する時には、同様に相手チームの行動も考えなければならない。チームが破壊的な活動（フリースローで中断させる）をするのか、活発で攻撃的なプレーで、攻撃のペースを乱すことを求めるのかで、パッシブプレーの評価基準は大きく異なる。

（次号へつづく）

図5　パッシブプレーの最終場面・段階

最終場面・段階

シュートチャンスになる

□明らかなテンポ切り替え
- パスまわしの速さ
- 走りとうごきの様子

□1対1攻防

□戦術的に手段を逆用する場面の有無
- 押す・突く
- 小人数でやる場合
- クロスを多用する
- はなれたところにパスを送る

□防御側との接触

□対防御プレーの目的設定
- 違反となる挑発行為
- 基本的なポジションからの防御

相手の行為・動作

□防御側の反応状態
- 攻撃側の動作への反応

□違反をかえりみない防御行為発生は
- 攻撃側のプレーに対してつねに
  フリースローにして中断をねらう

□攻撃・積極的防御
- パスコースや走るコースを
  ブロックする
- 攻撃側のテンポ・リズムを崩す・
  中断にもちこむ
- 違反となる挑発行為

第5回関東ビーチハンドボールフェスティバルさざ波大会

期日：平成13年5月19日(土)～20日(日)　場所：千葉県安房郡富浦町原岡海岸

男子の部

[予選リーグ結果]

(a) リーグ
①BEACH BOYS（東京）
②IBU勝浦パイレーツA（千葉）
③FILTER（千葉）

(b) リーグ
①サンバ☆de☆富浦
②市原クラブ（千葉）
③IBU勝浦パイレーツB（千葉）

(c) リーグ
①IBU勝浦パイレーツC（千葉）
②海自横須賀連合B（神奈川）
③KAGURA（東京）

(d) リーグ
①オール千葉（千葉）
②海自横須賀連合A（神奈川）
③千隼（千葉）

[決勝]

BEACH BOYS 2（7－6 / 15－12）0 オール千葉

前半開始からGKの2点狙いの攻撃からお互いスローペースの戦いとなり、ようやく44秒B・Bは岩本のゴールで先制。その後B・Bはシュートミスが出てしまい、その隙にオール千葉が松原のシュートなどで確実に1点ずつを加え、5分までに4対1とリードした。その後オール千葉・近藤、B・B・五島の2点シュートなどで前半終了時には6対6となり延長戦に突入した。お互いGKの好守にシュートを阻まれ、43秒にB・B・飯島のカットインシュートで勝ち越し、前半終了。後半に入ると、B・Bがリードしオール千葉が松原、近藤らで追う展開となり、5分過ぎにはオール千葉が7対7と同点にするものの、以後B・Bは五島の2点シュートとGK宇田川の再三の好守でリードを広げ、15対12でB・Bが勝利する。スコアこそ差がつかなかったもののB・Bは実力にまさり、前半、退場・失格者が出てリズムを崩したが後半は修正し完勝。また準決勝で強豪サンバ☆de☆富浦を破ったオール千葉は健闘むなしくベテランのスタミナ切れで惜しくも準優勝に終わった。

〈順位〉

優　勝　BEACH BOYS（初優勝）
準優勝　オール千葉
第3位　サンバ☆de☆富浦
第4位　IBU勝浦パイレーツC
第5位　IBU勝浦パイレーツA
第6位　海自横須賀連合A
第7位　IBU勝浦パイレーツB
第8位　海自横須賀連合B
第9位　千隼
第10位　FILTER
第11位　市原クラブ
第12位　KAGURA

女子の部

[予選リーグ]

（あ）リーグ
①オール選抜（千葉）
②ジャイコズ（神奈川）
③IBU勝浦パイレーツGALS（千葉）

（い）リーグ
①千葉クラブ（千葉）
②ブレンド（東京）
③柏陵OG（千葉）

（う）リーグ
①藤乃（東京）
②千葉明徳B・B（千葉）
③湘南クラブ（東京）

[決勝]

オール選抜 2（14－8 / 14－3）0 藤乃

立ち上がりは、経験豊かな藤乃のルールを巧みに駆使したプレーが目立った。対するオール選抜は戸惑いがあるようにも見受けられたが、何とか無難に相手の攻撃をかわしていく。しかし試合が動いたのは開始2分過ぎのことであった。藤乃のパスミス、シュートミスを確実にものにしたオール選抜が4連続得点をあげリードを広げる。中盤以降は藤乃・土佐林、オール選抜・宮元が中心となり一進一退の攻防が繰り広げられるが、結局、この点差は縮むことなく前半を終了する。後半は序盤こそ点の取り合いとなったが、終始オール選抜のペースで試合は進む。藤乃はうまくボールが回らず、得点チャンスを幾度となく逃してしまう。気持ちの焦りからか、強引にカットイン、1対1を攻めるが、逆に相手への攻撃機会を与える結果になってしまい、さらに点差はひらく。終盤、土佐林、戸辺、村田らの必死の攻撃もむなしく、14対3でオール選抜がセットを取る。ビーチハンドボールでの経験が豊かな藤乃と日本リーグ経験者が集まるオール選抜との対戦となった。5名のメンバーでのぞんだ藤乃であったが、スピードのあるオール選抜のプレーに対して、体力的に大きなハンデを背負ったことを加味しても、事実上の女子決勝戦でもあるこの試合は、大変見応えのあるものでした。

〈順位〉

優　勝　オール選抜（初優勝）
準優勝　藤乃
第3位　千葉クラブ
第4位　ブレンド
第5位　ジャイコズ
第6位　千葉明徳B・B
第7位　IBU勝浦パイレーツGALS
第8位　湘南クラブ
第9位　柏陵OG

第7回ヒロシマ国際ハンドボール大会
大会要項

1. 目　的

1994年に広島市において開催された第12回アジア競技大会を記念して開催次年度から始まった大会で、今年は女子の大会となる。国際平和文化都市を標榜する広島において国際試合を行うことにより、ハンドボールを通じて参加国との友好を深める。

2. 主　催　(財)日本ハンドボール協会

日本ハンドボールリーグ機構・中国新聞社

3. 主　管

広島県ハンドボール協会・広島市ハンドボール協会

4. 後　援（予定）

広島県・広島市・広島県教育委員会・広島市教育委員会

(財)日本体育協会・(財)日本オリンピック委員会

(財)広島県体育協会・(財)広島市体育協会

(財)広島市スポーツ事業団・(財)広島平和文化センター

NHK広島放送局・中国放送・広島テレビ放送

広島ホームテレビ・テレビ新広島・広島エフエム放送

5. 協　賛　　広告協賛各社

6. 大会期間　平成13年7月26日（木）～7月29日（日）

7. 競技会場　広島市東区スポーツセンター

8. 参加チーム（予定）

女子4チーム

- 全日本ナショナルチーム
- Anhui　Team（中華人民共和国）
- 光州市庁H.C.(韓国)
- (選考中)

9. 競技規則

2001年国際ハンドボール連盟競技規則。

10. 試合方法　1回戦総当たりリーグ方式

11. 選手団　　最大22名（16名の選手と残りは役員）

12. 費用負担

(1) 参加チーム

12－1 自国と日本までの往復の航空運賃

12－2 空港利用税ならびに、査証取得に関わる費用

12－3 開催地が負担する宿泊日以外の宿泊費及び22名をこえる者の宿泊費（1日1人120米ドル）

(2) 開催地

12－4 競技会に関連する広島（日本）での全経費（電話、ファックス、クリーニング等の個人的費用は除く）。

12－5 1選手団につき最大22名までの宿泊費。

到着日（7月25日）から出発日（7月30日）まで（実質宿泊は5日）

12－6 国内での移動費

13. 宿泊ホテル

広島市中区中町9－12 広島三井ガーデンホテル

TEL（082）-240－1131

14. 審　判　　日本（4ペア）国際審判員

15. 入場料

	前売券	当日券	通し券
一　般	1,000円	1,500円	2,500円
高校生	500円	700円	1,000円

16. 試合日程（予定）

	スケジュール	広島会場
7/25(水)	広島着	
7/26(木)	代表者会議 審判会議 記者発表 県知事・市長 表敬訪問	
7/27(金)	試合	17:30～韓　国vs 19:00～中　国vs全日本
7/28(土)	試合	14:00～高校招待試合（女） 広島県選抜vs山口県ﾁｰﾑ 16:00～中　国vs 17:30～全日本vs韓　国
7/29(日)	試合	13:00～韓　国vs中　国 15:00～全日本vs 18:00～表彰式・ サヨナラパーティー
7/30(月)	広島発	

出場チームによって対戦カードが変更になります。

平成13年度　全日本大会審判一覧表

大会名	開催地	期　日	審　判　員　氏　名
第42回 全日本実業団 選手権	熊本県	7/11 〜15	◎喜井　美雄　○森山　正治 藤井　俊朗・大熨　嘉彦(岡山)　小山　勉・佐路　清隆(京都)　山本　興道・菅田　信也(埼玉) 仲里　貢・中地　健三(沖縄)　宮瀬　知周・牧　均(熊本) 加藤　晃・原井　進(山口)　高　俊文・奥川　和永(広島)
第52回 全国高等学校 総合体育大会	熊本県	8/2 〜7	◎細沢　覚　○大橋　幹正　○森山　正治　○河田　誠　○大村　守也　○建岡　欣也 仲田　稔・植村　彰(千葉)　俵　英生・亀山　耕司(北海道)　比留間　康・長谷川素道(東京) 福田　弘・冨田　拓(茨城)　原井　進・角　直樹(山口)　楓　健児・渡辺　貞夫(愛知) 矢田　晃章・田中　宏育(富山)　工藤　里花・外舘由美子(岩手)　田中　達男・川田　哲也(愛媛) 七条　和也・鶴　英樹(福岡)　龍　弘美・貞島　早苗(佐賀)　藤村　一有・松永淳一郎(長崎) 浦川　寿生・石崎　章弘(長崎)　藤本　幹生・田中　一則(熊本)　坂本　詔一・鶴田祐一郎(熊本) 山下　智紀・福島　亮一(熊本)　宮瀬　知周・牧　均(熊本)　亀井　一寿・堀川　智宏(大分) 石原口秀樹・富永　卓公(宮崎)　奥山　誠恒・海江田貴嗣(鹿児島)　仲里　貢・中地　健三(沖縄) 矢野　勝弘・佐川　正巳(奈良)
第44回 全日本 教職員大会	愛知県	7/25 〜27	◎島崎　政治　○板倉　孝雄 岩橋　源治・青木　英樹(愛知)　近藤　嘉明・河合　龍二(愛知)　三浦　渉・白井　雅彦(愛知) 渡辺　貞夫・楓　健児(愛知)
第６回 ジャパン オープン トーナメント	高知県	8/13 〜16	◎斉藤　実　○竹村　久晴　○中川　利彦　○岡本　憲和　○高橋　卓也 武智　誠治・松原　誠起(愛媛)　浜角　智之・山本　淳(島根)　稲葉　昌治・森本　泰夫(鳥取) 西尾　公彦・山崎　昭彦(静岡)　清水　修・成岡　浩(高知)　長谷部次雄・弘田　陸仁(高知) 佐賀　厚幸・宮崎　光一(高知)　杉山　孝広・渡辺　一晶(香川)　多田　宣行・真嶋　洋二(香川) 佐藤　公美・小川　昌志(徳島)　山本　耕一・壺内　博章(愛媛)　先田　寿志・森　実岳史(愛媛) 龍　弘美・貞島　早苗(佐賀)　上江州　登・儀間　稔(沖縄)　中森　雅彦・川勝　宏治(京都)
第30回 全国中学校 体育大会	山口県	8/19 〜21	◎溝口　博一　○福岡　篤紀 関根　昌彦・藤沢　賢治(北海道)　梅本　司・白川　裕隆(山口)　三宅　秀明・森脇　雄治(岡山) 稲石　典久・深見　忠司(愛知)　三谷　雅人・近藤　喜夫(三重)　松原　誠起・竹内　強(愛媛) 佐賀　厚幸・宮崎　光一(高知)　松森三樹男・大蔵　太(兵庫)　梅田　淳夫・横山和哉(和歌山)
第56回 国民体育大会	宮城県	10/14 〜18	◎斉藤　実　○小友　正人　○田村　登　○池田　加一　○斉藤　仁宏 仲田　稔・植村　彰(千葉)　小林　一夫・土屋　雅男(埼玉)　大橋　幹正・松崎雅芳(北海道) 村瀬　清史・篠原　理(北海道)　本田　義昭・安井　定徳(神奈川)　栗田　与一・譲原　昭(群馬) 関口　直人・新谷　幸司(山梨)　丸井　誠・横山　繁(青森)　佐藤　睦朗・大沢　由和(岩手) 中舘　豊・多田　和生(岩手)　渡部　努・高橋　一(秋田)　柏崎　博之・小野　恭一(山形) 田川　卓史・二瓶　元嘉(福島)　尾形　俊賢・佐藤　健(宮城)　木村　篤史・満井　寿彦(宮城) 高山　潤二・西山　健臣(宮城)　清水　修・長谷部次雄(高知)
第44／37回 全日本学生 選手権	富山県	11/13 〜18	◎佐野　和夫 家永　昌樹・福島　亮一(大阪)　米内山壮之・笹川　賢俊(北海道)　中沢　徹・服部　博幸(長野) 高田　和英・田村　裕志(石川)　藤井　善彦・竹野　誠司(福井)　山口　弘夫・岩上浩一郎(富山) 中島　昭博・谷藤　節雄(岩手)　金城　雄作・竹安　未央(大阪)
第53回 全日本総合 選手権	関東 東京都		◎斉藤　実　○上久保重次
第10回 JOCジュニア オリンピック カップ	大阪府	12/25 〜27	◎溝口　博一　○北山　隆 浅野　幹也・神谷　真次(愛知)　秦　隆二・秦　伊織(奈良)　奥寺　政俊・森　覚(奈良) 山内　徹好・西堀　和彦(滋賀)　金子　又広・伊藤　公英(滋賀)　寺内　啓之・佐々木昭彦(大阪) 浅井　隆志・岸本　光夫(大阪)　矢本　康成・神野　利雄(兵庫)　松森三樹男・大蔵　太(兵庫) 梅田　淳夫・横山　和哉(和歌山)　小山　勉・佐路　清隆(京都)　川勝　裕義・西沢　祐二(京都)
第24回 全国高等学校 選抜大会	富山県	3/23 〜28	◎細沢　覚　○大橋　幹正　○庄司　勝三　○中山　光広　○徳前　紀和　○光安三津夫 中舘　豊・多田　和生(岩手)　小川　俊哉・水谷　省一(北海道)　吉田　利和・矢崎　豊(山梨) 高　俊文・奥川　和永(広島)　近藤田都哉・池渕　智一(岐阜)　鳥谷　越洋・大平　忠一(長野) 小川　浩・小林　智隆(新潟)　田村　裕志・八十山　修(石川)　北中　弘規・山口　和博(石川) 佐々木昭彦・藤井　善彦(福井)　半田　有完・増田　克洋(福井)　矢田　晃章・田中　宏育(富山) 大石　克哉・桜打　佳浩(富山)　屋敷　吉英・小川　友康(富山)　安孫子　功・高橋　善浩(山形) 加藤　剛基・高木　優明(香川)　山村　利之・桐山　充晴(長崎)　早瀬　司・小林　弘和(滋賀)

第3回 全日本ビーチハンドボール選手権大会 開催要項

1. 主催 (財)日本ハンドボール協会
2. 主管 (財)日本ハンドボール協会ビーチハンドボール委員会
　　兵庫県ハンドボール協会
3. 期日　平成13年8月4日（土)・5日（日）(晴雨にかかわらず実施する)
4. 会場 「アジュール舞子」海岸
5. 競技日程
　8月4日（土） 9：00～10：00 ルール研修並びに審判講習会
　　　　　　　10：30～　　予選リーグ
　8月5日（日）10：00～　　決勝リーグ
　※参加チーム数により変更することもある。
6. 参加資格　全国9ブロックより推薦されたチーム。及び各都道府県から推薦されたチーム。日本協会で承認されたチームとする。未成年者は保護者の承諾を得たものとする。又、平成13年度（財）スポーツ安全協会保険、又は任意の保険に加入していること。
7. 参加人員 1チーム15名以内で、役員3名、選手12名以内とする。試合登録は役員3名、選手8名とする。
8. 申込方法
　①申込締切日　平成13年7月15日
　②参加申込者は、別紙様式（次頁）により2通作成（コピーする）したものを下記の指定された機関へ送付すること。

(1) 〒150-0041 東京都渋谷区神南1－1－1
　岸記念体育会館内
　（財）日本ハンドボール協会
　ビーチハンドボール運営委員会
　江成元伸　宛
　TEL 03－3481－2361 FAX 03－3481－2367

(2) 〒657-0022 兵庫県神戸市灘区土山町6－1
　親和女子高等学校内
　兵庫県ハンドボール協会　丸茂康子　宛
　TEL 078－854－3800
　FAX 078－854－3804、078－854－3805

9. 参加料
　1チーム20,000円をチーム名にて下記の銀行口座に振り込むこと。

銀行名	三井住友銀行　西神中央支店（337）
口座番号	普通 5185374
口座名義	丸茂康子（マルモ　ヤスコ）

10. 表彰 1～3位まで賞状と楯を授与する。

第42回高松宮杯 全日本実業団ハンドボール選手権大会 開催要項

1. 主催　（財）日本ハンドボール協会
　　全日本実業団ハンドボール連盟
2. 主管　熊本県ハンドボール協会
3. 期日　平成13年7月11日（水）～7月15日（日）5日間
　ただし、7月11日（水）午前中に諸会議・開会式を行う。
4. 会場
　7月11日（水）男子・山鹿市総合体育館 TEL:0968-43-0990
　　　　　　　女子・鹿央町公民館　　TEL:0968-36-2183
　7月12日（木）男子・山鹿市総合体育館
　　　　　　　女子・鹿央町公民館
　7月13日（金）男子・山鹿市総合体育館
　　　　　　　女子・鹿央町公民館
　7月14日（土）男子・山鹿市総合体育館
　　　　　　　女子・鹿央町民体育館　TEL:0968-46-5475
　7月15日（日）男子／女子　山鹿市総合体育館
　　　　　　　（ファイナルは男女TV中継予定）
5. 参加資格　日本ハンドボール協会に平成13年度L／A登録し、全日本実業団ハンドボール連盟が推薦したチーム。
6. 参加チーム
　［男子］ 湧永製薬・本田技研・大同特殊鋼・大崎電気・トヨタ車体・本田技研熊本・北陸電力・日新製鋼・アラコ九州・三景・デンソーファドレス・金沢市役所
　［女子］ オムロン・イズミ・立山アルミ・北國銀行・シャトレーゼ・日立栃木・ブラザー工業・ソニーセミコンダクター九州・香川銀行・ムネカタ
7. 参加人員　責任者1名、監督1名、チームスタッフ、選手16名（内試合出場は14名）ベンチ入り計18名（選手以外のベンチ入りは最大4名とし必ず日本ハンドボール協会に役員登録をおこなっていること）
8. 試合形式　主旨にもとづき従来より大幅に試合形式を変更した大会とする。（予選トーナメントから決勝リーグ戦とする）
9. 試合規定
　平成13年度（財）日本ハンドボール協会競技規則に準ずる。
10. 表彰
　(1) 上位3チームを表彰する
　(2) 功労賞…全日本実業団選手権大会にメンバーとして下記年数を登録された選手
　　・男子：10年、20年、25年
　　・女子：5年、10年、20年、25年
　　参加申し込み時に別紙書類にて申請のこと
　(3) ベストセブン賞、敢闘賞、最優秀新人賞（男女)、最優秀監督賞（男女)、最高殊勲選手賞（男女）

第3回 全日本ビーチハンドボール選手権大会　参加申込書

チーム名		責任者名	都 道 府 県
責任者住所 連絡先	〒	TEL　（　　） FAX　（　　）	
ユニフォームの色	①CP=　GK=	①CP=　GK=	

	氏　　名	年　令	勤務先（学校）
監　　督			
役　　員 ①			
②			
③			

選　　手 №.	氏　　名	年　令	身長(cm)	勤務先（学校）
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				

※ 主将は番号に○をつけて下さい。

上記により本大会の参加を申し込みます。

平成13年　　月　　日　　　チ ー ム 名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

記載責任者名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ㊞

がんばれハンドボール10万人会情報

新会員の紹介（2001年4・5月に入会・更新された方々）

4月入会・更新の方々

【茨城】
増田　徹

【埼玉】
佐藤晴明

【福井】
村上重治

【岐阜】
坂井田隆浩

【京都】
久保公雄
久保靖子

【大阪】
藤田洋之

【和歌山】
能木　進

5月入会・更新の方々

【北海道】
清水幸彦
笹本　允
葛西　暁

【岩手】
多田和生
藤村善光

【茨城】
阿部富六
阿部　翼

【栃木】
八木　豊
志賀良弘
志賀乃里子
中山富夫

【群馬】
高橋萬知子

【埼玉】
西濱弘幸
佐藤秀明

【千葉】
泉水孝浩
泉水庸子
泉水勇人
泉水　昭
泉水よね

【東京】
塩川安賢
緑川正博
石川浩和
吉田久士
石川晧一郎
石川泰子

【神奈川】
斎藤達也
吉澤和美
近久紀人
松岡正彦
小澤摩里子

【山梨】
植野　保
小池道春

【愛知】
村木啓作
浅野克彦
安藤　孝
山下泰典
禰津行雄

【三重】
山本菜津

【滋賀】
山下久美子

【大阪】
大井隆史
吉田敏明
ホテルフライトン江坂
島袋朝享
幸田富久子
幸田敦子
小川淳一
石垣翔伍
大西和雄
竹田信行
花岡忠春
北村泰子
陶山茂生
青谷　茂
平田由梨奈
藤田裕子
戸谷克蔵
古山由樹
脇田良子

【兵庫】
山中百合栄
山本英明

【奈良】
中村　治
中村雅代
小松原康志
鶴田智美

【和歌山】
山田　進

【島根】
今井久師
宮里健一

【広島】
有田　忍
荒川正人
高田順三
草ノ井文子
甲南包装工業株式会社
森川民子
高原裕子

【愛媛】
河本武夫

【福岡】
田中　守
下田昭弘

【長崎】
辻田光昭

平成12年度アテネ強化特別事業へのご協賛御礼

(財)日本ハンドボール協会
会長　米倉　功
アテネ強化特別委員会
会長　岩井正樹

平成12年度より発足致しましたアテネオリンピック出場必達を目指しますアテネ強化特別対策に対し、絶大なるご協賛を以下の各社より頂きました。

トヨタ車体(株)、
本田技研工業(株)鈴鹿製作所、
本田技研工業(株)熊本製作所、
湧永製薬(株)、大崎電気工業(株)、アラコ九州(株)、
(株)三陽商会、北陸電力(株)

アテネ強化特別委員会では、発足以来、ヨーロッパ（スペイン）での拠点設置、世界学生選手権選手団支援、ナショナルチーム外国人コーチ招聘、若手有望選手のヨーロッパ留学、アジアナショナルサーキットなど、アテネオリンピック出場を必達するための事業を次々と展開しております。

これも、ご協賛各社のご協力の賜物と感謝する次第であります。平成13年度も、諸施策を展開してまいりますので、引き続き絶大なるご理解、ご支援のほどよろしくおねがい致します。

最後になりましたが、ご協賛各社の益々のご発展を祈念致します。

トップレフェリー・日本リーグ担当レフェリー研修会

目　的　審判員の資質向上と、技術強化関係とのコミュニケーション作りは、審判部にとって大きな目標の一つである。ここに、審判員とチーム指導陣とが一堂に会し、技術と反則について検討し、今後の日本ハンドボールの発展を目的とする。

助　成　財団法人
大崎企業スポーツ事業研究助成財団

期　日　平成13年7月26日（木）～28日（土）

会　場　広島市東区スポーツセンター

内　容
①昨年度の各種大会の反省（VTR等）
②新競技規則の概要
③競技規則の研究
④外国選手から審判員へ
⑤モデルプレーヤーの協力を得て
実技研修
⑥広島国際大会でのレフェリーチェック
⑦体力テスト（未検審判員のみ）

講　師　外国選手講師として、イズミチームの林五卿氏と交渉中

モデル　湧永製薬、日新製鋼男子チーム

受講対象　全国大会審判員、日本リーグ審判員、日本リーグチーム監督、大学チーム監督、その他受講希望者

日　程
7月26日
13：00　集合
東区スポーツセンター会議室
13：30～ 座学　①～④
18：00　終了予定
7月27日
10：00～ 実技研修
17：00　終了予定
18：00～ 広島国際観戦と
レフェリーチェック
7月28日
9：30～ 昨日の試合を基に討論
12：00　全日程終了予定

参加料　3,000円（資料、昼食代）

宿　泊　希望者には宿泊所を斡旋する。
「三井ガーデンホテル広島」

問合せ先　審判部　審判長　斉藤　実
総務委員長　花野誠一

男子第44回・女子第28回全日本教職員ハンドボール選手権大会

主　　催　(財)日本ハンドボール協会・
　　　　　全日本教職員ハンドボール連盟
主　　管　愛知県ハンドボール協会・
　　　　　豊田市ハンドボール協会
期　　日　平成13年7月25日(水)　15時00分～
開 会 式　7月26日(木)・27日(金)　競技期間
会　　場　豊田市体育館
　　　　　〒471-0861　愛知県豊田市八幡町2－20
　　　　　TEL　0565－31－0451
＊ 交通　名鉄三河線「豊田市駅」下車　徒歩10分

理 事 会　7月25日(水)　11時00分～12時00分
　　　　　豊田市体育館会議室
審判会議　7月25日(水)　12時30分～13時30分
　　　　　豊田市体育館会議室
代表者会議　7月25日(水)　13時30分～14時00分
　　　　　豊田市体育館会議室
評議員会議　7月25日(水)　14時00分～14時30分
　　　　　豊田市体育館会議室
開 会 式　7月25日(水)　15時00分～
　　　　　豊田市中央公民館中央ホール

第9回全日本ハンドボールマスターズ大会

主　　催　(財)日本ハンドボール協会・
　　　　　全日本教職員ハンドボール連盟
主　　管　愛知県ハンドボール協会・
　　　　　豊田市ハンドボール協会
期　　日　平成13年7月27日(金)　午後7時00分～
　　　　　競技運営委員会及び開会式
　　　　　7月28日(土)・29日(日)　競技期間
会　　場　豊田市体育館・
　　　　　中京大学豊田学舎6号館大体育館

審 判 会 議　平成13年7月27日(金)　午後6時00分～
　　　　　豊田市体育館会議室
競技運営委員会　平成13年7月27日(金)　午後7時00分～
　　　　　豊田市体育館会議室
開 会 式　平成13年7月27日(金)
　　　　　競技運営委員会終了後
　　　　　豊田市体育館会議室

[7月の行事予定]

【大会】
7月12日(木)～15日(日)　全日本実業団選手権　熊本
7月22日(土)～23日(日)　全国クラブ選手権西地区大会　高知
7月25日(水)～27日(金)　全日本教職員大会　愛知・豊田
7月26日(木)～29日(日)　ヒロシマ国際大会　広島
7月27日(金)～29日(日)　全国クラブ選手権東地区大会　福島・本宮
7月27日(金)～29日(日)　マスターズ大会　愛知・豊田
7月29日(日)～8月12日(日)　女子ジュニア世界選手権　ハンガリー

【会議】
☆常務理事会
7月14日(土)／東京

HAND BALL CONTENTS JUI

(財)日本ハンドボール協会編　『ハンドボール』　第四二〇号
昭和四十年六月七日　第三種郵便物認可　平成十三年六月二十六日印刷　平成十三年七月一日発行
東京都渋谷区神南一―一―一
電話　代表　三四八一―二三六一
振替　〇〇一二〇―七―一〇二九三
編集兼発行人　大西武三
定価　年間三三〇〇円（一冊三〇〇円）